

# 同窓会報

No.28



国立大学法人  
豊橋技術科学大学  
TOYOHASHI  
UNIVERSITY OF TECHNOLOGY



エレクトロニクス先端融合研究所 (EIIIRIS) 開所式 テープカット

2011

第28号 2011 豊橋技術科学大学同窓会



## 本学の最近の動向

### ～国立大学，第2期中期計画のスタートとエレクトロニクス先端融合研究所の開所～



豊橋技術科学大学 学長 榎 佳之

既に前号で紹介致しましたが，本学では本年度から第2期の中期計画期間がスタートいたしました。本学は1976年の設立以来「技術科学」に基づく教育と研究を使命として，実践力，創造力，指導力のある技術者を育成するとともに，次の時代を切り開く先端的技術の開発研究を進め，数多くの実績を積み重ねてまいりました。しかし，開学後30年以上が経過し，今日では社会の状況も大きく変化し，技術科学への期待も変化しております。そのような状況の下で，本学では20年，30年先を見据えて，新たな技術革新をもたらすために，組織・体制の再編など新しい時代に向けての「改革」を検討して参りました。そして本年4月から

国立大学法人の第2期中期計画が始まるのを機に，「技術を究め，技術を創る」という基本理念を掲げ，教育・教員組織を再編するなど様々な改革を実施しております。今回は研究面での改革の大きな柱であります「研究所」の設立について紹介させていただきます。

本学ではこれまでも数多くの優れた技術開発の実績があり，本学ではこれらのすぐれた研究活動の中で大型の外部資金を獲得した研究を対象にリサーチセンターを設置して支援して参りました。しかし国際的に技術開発競争が激化する中，また大学の特質・特色を鮮明にすることが求められる

中で，国際競争力のある研究推進にはこれまでのボトムアップ型の支援だけでは十分でなく，本学として進むべき方向を明確にし，トップダウン方式で推進を図ることが必要であるとの認識に至りました。そのような認識のもとで設置されたのが本学として初めての研究所である「エレクトロニクス先端融合研究所」(写真1)であります。昨2010年10月1日に開設され，11月15日に多数の来賓を迎えて開所記念式典と記念シンポジウムを開催致しました。



写真1

【エレクトロニクス先端融合研究所の概要】

本学ではこれまでも数多くの優れた技術開発の実績があり、特にエレクトロニクス分野では国際的にも高く評価されています。中でも世界で「豊橋プローブ」と呼ばれる高度なセンサチップの開発や世界標準規格を獲得した超大容量のメモリー素子の開発などは世界を先導するもので、文部科学省のグローバルCOEプログラムの拠点にも選ばれております。

本研究所はこの本学のもつ最先端のエレクトロニクス技術を一層発展させるとともに、それを医学・医療、農学・農業や情報・通信などの実学分野の「最先端の知」と融合させ、新たな境界・融合領域を切り拓き、その成果を社会的イノベーションに繋げることを目指すものであります。

具体的には本研究所は、先端融合研究を推進する先端融合研究部門、研究支援・人材育成部門、そして、基盤となる先端技術の開発を担う付属施設群から構成されています。そして、その核となる先端融合研究部門は3部門からなります(図2)。アドバンスドメディカル部門では浜松医科大学との共同で開発が進められる臓器の3次元ディスプレイ診断装置など革新的な医療情報システムの開発を、ブレインテクノロジー部門では脳の神経回路の活動を直接とらえるセンシングシステムなど脳・神経工学の革新的技術開発を、そしてグリーンテクノロジー部門では最先端のIT技術を駆使した植物工場の開発などを目指しております。

これらを実施する体制として所長に石田誠教授(副学長)、副所長に菊地洋教授(副学長)が着任し、専任の研究スタッフとして英国マンチェスター大学ご出身のサンドウー・アダシュ教授を東工大よりお迎えしました。更に専任教員3名に加え、将来の専任教員候補者の採用支援制度であるJSTのテニュア・トラック制度を活用して国内7名、海外3名の優秀な若手研究者を採用しました。これらの若手には脳科学やバイオセンサーの専門家など多様な分野の人材が集まり、これからの新しい展開が期待されます。この他に本学の教官や他大学の研究者、企業からの協働開発者などが加わり最先端の融合研究を展開します。

本学ではこの初めての研究所を本学の研究活動を牽引し、それを世界に発信する「旗艦」組織と位置づけています。

【更なる発展に向けて】

本学ではエレクトロニクス分野以外にも活発な技術開発研究が進められています。その中でもロボット関連の技術には優れたものがあり、またこれから様々なロボット技術への社会ニーズも強まってくると予測されます。そこで本年4月に新たに「人間・ロボット共生リサーチセンター」を立ち上げました。このセンターでは本学の隣にある福祉村病院と連携し、人とロボットが協働して介護に当たるナースステーションを開発する研究など地域の企業、病院と一体となって高齢化社会を見据えた実用的なロボット技術の開発をすすめております。

本学では、これからも伝統と実績を踏まえつつ、更なる発展を期し、新しい領域への挑戦を続けてまいります。今後とも本学の教育・研究活動に引き続きご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

研究展開例(主要教員、推進リサーチセンター)

<p><b>アドバンスドメディカルテクノロジー</b></p>	
<p><b>フォトリックメディカルデータストレージ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホログラムメモリー、超高速空間光変調器</li> <li>・全医療画像データ保存、生涯メディカルデータカード</li> </ul>	<p><b>フォトリックメディカル情報ディスプレイ</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3次元ディスプレイ</li> <li>・リアルタイム生体活動表示</li> </ul>
<p><b>フォトリックメディカル情報処理</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フォトリック画像処理(医療画像データ処理)</li> <li>・光コンピューティングに基づく超高速高精度医療</li> <li>・生体情報処理のための集積化超高感度室温磁界センサ</li> </ul>	
<p>【主要教員】(順不同、敬称略) 井上光輝、福田光男、若原昭浩、松田厚範、奥田隆行、Adarsh SANDHU</p> <p>【推進リサーチセンター】 ナノフォトリック情報テクノロジーリサーチセンター</p>	
<p><b>ブレインテクノロジーイノベーション</b></p>	
<p><b>ニューロセンシング</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・神経伝達物質イメージング</li> <li>・神経回路網リアルタイム計測・制御</li> </ul>	<p><b>マインドリーディング</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・脳情報デコーディング</li> <li>・ブレインマシンインタフェース(BMI)</li> </ul>
<p><b>ブレインエンジニアリング</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・脳活動光制御</li> <li>・感覚・運動機能再生</li> </ul>	
<p>【主要教員】(順不同、敬称略) 石田 誠、中内茂樹、寺嶋一彦、三浦 純、堀川順生、北崎充規</p> <p>【推進リサーチセンター】 インテリジェントセンシングシステムリサーチセンター</p>	
<p><b>グリーンテクノロジーイノベーション</b></p>	
<p><b>インテリジェントグリーンハウスの開発</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・太陽光利用型植物工場</li> <li>・マルチモーダルセンサ</li> <li>・持続的食料生産システム</li> </ul>	<p><b>先端ゲノム科学</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・RNA工学</li> <li>・ゲノム機能科学</li> <li>・バイオセンサ技術</li> </ul>
<p><b>環境浄化・モニタリング技術の開発</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高度水処理技術</li> <li>・農業・食料生産における環境負荷軽減</li> <li>・温室効果ガス(メタン、亜酸化窒素)の発生抑制</li> </ul>	
<p>【主要教員】(順不同、敬称略) 平石 明、菊池 洋、澤田和明、岩佐精二、浴 俊彦</p> <p>【推進リサーチセンター】 先端農業・バイオリサーチセンター</p>	

スマートナノエレクトロニクス基礎研究  
スマートセンサ技術・フォトリック情報テクノロジー

図2

# 旧第一工学系

## 機械システム(旧エネルギー)工学系より

### 学内近況報告

機械システム工学系 関下 信正

機械システム(旧エネルギー)課程および専攻のご卒業生の方々におかれましては、ご健勝のことと存じます。2010年4月の学内再編に伴いまして、旧機械システム工学系と旧生産システム工学系が一緒になり、機械工学系(学部115名/年、修士104名/年)という新しい学科として再編成され、新体制で研究、教育を行っております。併せて長年親しまれた3学期制から2学期制に移行しました。

旧機械システム工学系に関する最近の職員の異動につきましては、2009年12月に教授の日比昭先生がご退職、2010年3月に教授の高木章二先生がご定年退職されました。本学の研究・教育のために長い間ご尽力いただき、日比先生および高木先生には感謝しております。また、名田譲先生が2010年11月から徳島大学へ栄転されました。一方、2010年4月には横山博史先生が助教として赴任されました。

新聞紙上などで就職難が頻繁に報道されておりますが、本学の就職状況につきましては、旧機械システム工学課程・専攻の学生(2011年3月卒業予定)のほぼ全員が8月までに優良企業から内定をいただきました。これもひとえに卒業生の方々のご活躍が社会から高く評価されているお陰です。学生達に代わって深く感謝申し上げます。また、本年も多くの卒業生の方々が採用活動等で大学を訪問して下さり、まことにありがとうございました。在校生にとっては諸先輩方の生の声を聞くことができる貴重な機会となっておりますので、今後ともよろしく願い申し上げます。

末筆ながら、卒業生の皆様におかれましてはそれぞれの職場でお元気に活躍されることをお祈り申し上げます。近況報告とさせていただきます。

#### [機械・システムデザインコース]

教授：河村庄造, 足立忠晴  
准教授：感本広文, 竹市嘉紀  
助教：樋口理宏

#### [システム制御・ロボットコース]

教授：鈴木新一  
准教授：内山直樹  
助教：佐野滋則

#### [環境・エネルギーコース]

教授：上村正雄, 野田進, 北村健三, 飯田明由  
准教授：中川勝文, 柳田秀記, 鈴木孝司, 関下信正  
助教：伊藤高啓, 光石暁彦, 横山博史

#### [技 官]

徳増学, 神谷昌宏

#### [事 務]

永田千尋, 野亦真理子

## 旧第一工学系同窓会事務局より

### H21年度収支報告

収 入 の 部	
前年度繰越金	¥5,654,764
利息(普通預金利子)	¥1,078
収 入 合 計	¥5,655,842
支 出 の 部	
会報発送費	¥93,760
アルバイト代	¥30,000
支 出 合 計	¥123,760
次年度への繰越金	¥5,532,082

## 平成 21 年度 機械システム内定企業

修 士			学 部
トヨタテクニカルディベロプメント(株)	小松製作所 (エンジン)	ジェイパワーシステムズ	トヨタ自動車北海道(株)
キャノン(株)	東北電力	ミネベア	コベルコ建機
JR 東海	豊田自動織機	ACCESS	国土交通省 (公務員)
ECS	電源開発	関東自動車工業	MARUWA (日本)
ソニー	ダイキン	日本電産シンボ	新和計装
日立アプライアンス	日本テキサスインスツルメンツ	三菱重工プラスチックテクノロジー	エナジーサポート(株)
川崎重工	長田電機(株)	アイコム	アルプス電機 (マレーシア)
AIHO	デンソー	新光電子	化工機環境プラントエンジニア(株)
ブラザー工業(株)	日本特殊陶業 NGK	セイコーエプソン(株)	(株)ミットヨ
大成建設	INAX	東芝	ローム(株) in マレーシア
小松製作所	第一精工	豊橋造船	
日立建機(株)	日立工機(株)	日本原子力発電	
住友重機械工業	関東自動車工業	カワサキプレジジョンマシナリー	
ヤンマー(株)	神鋼環境ソリューション	豊田自動織機	

## 第一系工学系同窓会 会長からのご挨拶

宮 本 真 志

(トヨタ自動車(株) 1983年エネルギー工学専攻修了)

1系同窓会の皆様、如何お過ごしでしょうか。時が過ぎるのは本当に早いもので、昨年ご挨拶させて頂いてから一年が経ってしまいました。昨年、景気が一向に良くならないと書いた事を思い出しましたが、依然として状況が好転しない今日この頃です。この一年は色々な事件で大変多忙な日々でしたが、国内外の多くの社外関係者の方々と懇談させて頂く機会も多く大変貴重なご意見をたくさん聞く事ができました。なる程と納得してしまった一つは、米国のある大学の先生から最近の日本人留学生についてのコメントでした。「自分の車の振動が大きいのだが？」と学生に聞かけると、米国の学生は「問題ですか？」日本人留学生は「専門家に調査お願ひしましょう」韓国留学生は「是非、我々に調査させてください」との回答だったとの事です。私は、「これでは将来韓国に技術力で負ける」と大きな危機感を覚え



ました。一般論で語るのには早合点かも知れませんが、確かに一昔前は日本も韓国のように「追い着け追い越せ」の勢いがあったのに、時代と共に「ハングリー精神」が薄れてきた様な気がします。又、IT技術の発達で便利な世の中になったが故に「手を汚す」機会も減ってきており、技術者の育成が難しくなってきたとも感じます。資源や労働力の少ない日本の今後の更なる発展の為には、技術力で良品廉価を実現するしかなくこの為には、優秀な技術者を継続的に世の中に送り出さなければなりません。昨年も「夜の明けない夜はなく、必ず夜明けを迎えます」と書いた事を思い出しましたが、この為に、企業の財産である日本の将来を背負って頂く金の卵を送り出す事にご尽力頂いている先生方に感謝申し上げたいと思います。

最後に、本年も会報を会員の皆様にお届けすることができ、大変嬉しく思いますと共に、投稿頂きました皆様それから編集等色々にご尽力頂きました皆様にお礼を申し上げます。

## 卒業生の近況報告

エンジニアではなく、設計職人です。

風 早 隆 廣

(株)ハセガワ 1990年エネルギー工学課程卒業 竹園研究室)

卒業した1990年は崩壊直前とはいえバブル景気の最中でした。私は大学院には進まず、現在の勤務先に就職を決めました。卒研を済ませ、卒業までの2ヶ月間をトヨタ自動車にて研修しました。最初にお世話になったトヨタの総務？



の方に就職先を告げると、もったいないと言われました。ハセガワは確かに小さな模型メーカーでしたが、それは無いだろうと思ったものです。ハセガワ入社後、1年も経たないのに新規アイテムの全設計をまかされ、マイペースで業務を進めてスケジュールを遅延させた事もありました。

結婚を機に、2000年に自宅から通える場所にある

自動車部品メーカーに転職しました。高専～技科大卒業の肩書きはインパクトがあったらしく、スムーズに採用されました。それからエンジニアらしく試験・レポートに明け暮れる毎日・毎晩となりましたが残業漬けに辟易し、1年でハセガワに復帰しました。その部品メーカーの専務さんが、そんな人間は初めてだと驚いていました。申し訳無い話です。

ハセガワに復帰してからは、残業漬けの訓練のおかげか仕事の進みが速くなりました。ハセガワ設計部門のメンバーは様々な学歴・職歴を持ち、各人の個性が

直接、製品開発に反映されます。そのせいか、職人的な世界になっています。私は同期卒業生・修了生の中で最もエンジニアリングから遠い世界で仕事をしているのかもしれませんが。それでも飛行機・自動車・船・鉄道等の模型の設計においては、実物取材・資料収集・古い図面や写真の調査が必要なのですが、やはり高専・技大で学んだ知識・考え方は非常に有用です。英語も入社前の予想以上に読み書きしています。もちろん今も勉強すべき事が多くて困っていますが、学生時代に身に付けた事が基礎になり、役立っています。

## 研究室だより

### 機能材料・構造システム研究室

機械工学専攻 1年 藤本 健太

卒業生・修了生の皆様いかがお過ごしでしょうか。皆様におかれましては、ご健勝のこととお慶び申し上げます。現在、機能材料・構造システム研究室では、足立忠晴教授と樋口理宏助教のご指導の下、修士8名、学部7名の計15名で日々研究に勤しんでおります。また、本年度秋よりインドネシアからの留学生が新たに1名加わりました。

本研究室は昨年度に立ち上がったばかりである為、実験装置の製作など研究環境の整備が大変ではありますが、メンバー全員で協力し、各々の研究に精進しております。

現在行われている研究内容としましては、材料力学および材料工学の両面から、様々な目的に適した構造を有する材料および構造を実験的、理論的方法、数値

シミュレーションにより、研究・開発および設計を行っております。研究の対象は高分子材料、金属材料、セラミックス材料および、それらの複合材料のナノ・マイクロサイズから大規模な構造までを対象としております。どの研究内容もまだ駆け出しで、試行錯誤しておりますが、学生全員で助け合いながら研究を進めております。研究室の詳細につきましてはホームページ (<http://solid.me.tut.ac.jp/solid/>) をご覧ください。

また、研究室の行事では、歓迎会、忘年会、旅行等を行い、楽しい学生生活を送っております。

最後になりましたが、卒業生、修了生の皆様の健康、ご活躍を祈念すると共に、今後とも、機能材料・構造システム研究室をご支援くださいますよう、お願い申し上げます。



# 旧第二工学系

## 豊友会

-for you-

### (生産システム工学系同窓会会報)

#### 学内近況報告

横山 誠二

卒業生、修了生の皆様お元気でしょうか。ご健勝にて、各職場で活躍のことと思います。

さて、今年度(2010年度)より、学内再編がスタートしました。旧1系の機械システム工学系と旧2系の生産システム工学系が合併し、新しく新1系の機械工学系となりました。それに伴い、旧2系にあった3つの大講座(生産計画、加工、材料)は、新1系では4つのコース(システム制御・ロボット、材料・生産加工、機械・システムデザイン、環境・エネルギー)になりました。また、研究室名も変更されています。詳しくは表、HPをご覧ください。

この再編と併せて、従来の3学期制から2学期制へ移行しました。講義時間も75分から90分に、1学期あたり10週から15週に変わりました。皆様方が修得された講義名や内容も変わっています。

したがって、昨年度はこれらへの対応で多忙を極めました。現在は旧体制から新体制への過渡期中、両システムが並列で動いています。そのため、学内再編により新しく入学したB1、M1の学生は新しい機械工学系に在籍しています。現B2、B4およびM2は旧生産システム工学系にそのまま所属しています。新しくB3に編入した学生も生産システム工学系に在籍しています。完全移行は現B2が卒業する3年後からとなります。

さて、系の近況を報告します。これまで旧2系の先頭に立ち、教職員を引っ張ってこられました清水系長から、旧2系の寺嶋先生が新1系の系長に2010年度より就任されました。系長補佐として、戸田先生、北村先生(旧1系)が就任されました。新しく生まれ変わる系を開拓、発展させるとともに、旧系の幕を下ろす役割を演じます。旧生産システム工学系での人事異動と



しては、2010年3月に竹中先生が退職され、関西大学化学・生命工学部、化学・物質工学科の教授となりました。2010年4月に永井萌土助教が赴任されました。同日、文科省の優秀若手研究者海外派遣事業で野田善之助教がドイツに留学されています。また、同日“人間・ロボット共生リサーチセンター”が本学に設立され、寺嶋先生がセンター長に就任されました。

昨年度、旧2系はJABEEの継続認定を受けました。JABEE(日本技術者教育認定機構)は5年前に本学で最初に審査を受け、認定されたものです。このように、JABEEの継続が認定されましたのも、旧2系教職員の教育に対する熱い情熱と努力、そして皆様方のご協力の賜物と思っております。これに関連して、皆様にアンケート等をお願いするようなことがあるかと思いますが、その折には、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

1987年のブルントラント委員会報告書“*Our common future*”で、持続可能な発展(Sustainable

#### [機械・システムデザインコース]

教授：柴田隆行、森 謙一郎  
講師：安部洋平  
助教：川島貴弘、永井萌土  
助手：前野智美

#### [材料・生産加工コース]

教授：伊崎昌伸、梅本 実、戸田裕之、福本昌宏  
准教授：戸高義一、安井利明  
講師：小林正和、横山誠二  
助教：笹野順司、山田基宏

#### [システム制御・ロボットコース]

教授：清水良明、章 忠、寺嶋一彦  
准教授：三宅哲夫、三好孝典、Batres-Prieto Rafael  
助教：今村 孝、阪口龍彦、野田善之

#### [寄附講座]

柴田隆行(兼任教授)、村上良彦(准教授)、野村光由(助教)、堀内 宰(客員教授)、榎田正美(客員教授)

#### [技術専門職員]

小楠和彦、椿 正巳

#### [事務室]

小坂和子、波木井真美子

(平成22年12月現在)



development) が提唱されました。これは、20世紀型工業社会の見直しを意味すると思います。新1系は、機械工学のイノベーションを創造し、モノづくりを通して未来社会の発展に大いに貢献できる人材を育成するため、従来の力学やエネルギー、生産技術、システム技術に加えて、ロボット、バイオメカニクス、ナノテクノロジー、生体医療福祉、環境、マネジメントなどの、モ

ノづくりに関する新分野について教育を行っていきます。教育、研究を通して、社会に役立ち、人類に夢と希望を与える新しい機械工学の拠点形成を目指し、精進していく所存です。

これからも暖かい、また厳しい励ましをかけて下さいますようお願いいたします。最後になりましたが、皆様のご健勝とご活躍を祈念して、筆を置きます。

表 新旧対照表

生産システム工学系 (旧2系)	機械工学系 (新1系)
生産計画学講座 システム制御研究室 システム創製研究室 計測システム研究室	システム制御・ロボットコース システム制御研究室 生産システム研究室 計測システム研究室
材料工学講座 材料機能制御研究室 製錬工学研究室 材料保証研究室	材料・生産加工コース 材料機能制御研究室 薄膜材料研究室 3D/4Dマテリアル強度評価研究室
加工学講座 接合加工研究室 塑性加工研究室 精密加工研究室	界面・表面創製研究室 機械・システムデザインコース 極限成型システム研究室 マイクロ・ナノ機械システム研究室
寄附講座 オーエスジーナノマイクロ加工学講座	寄附講座 オーエスジーナノマイクロ加工学講座

## 着任のごあいさつ

機械工学系 助教 永井 萌 土

2010年4月1日付で機械工学系の助教として着任しました永井萌土です。私にとって技科大は、4番目に所属する大学です。(1) 学部では名古屋大学工学部機械航空工学科、修士課程では同大工学研究科マイクロ・ナノシステム工学専攻に所属していました。(2) 博士課程は東京大学大学院工学系研究科電気工学専攻に在籍し、2009年9月に博士課程を修了しました。修了後から2010年3月までは、引き続き同じ研究室に研究員として勤めていました。(3) 2008年には、博士課程の在学中に、4ヶ月間、米国マサチューセッツ工科大学に滞在し、実験・研究するチャンスがありました。4番目に味わう本学は、高専生が多いのが特徴で、その独特な雰囲気を感じています。

さて研究の話に移ります。博士課程からは、生物を



アクチュエータとして利用し、マイクロシステムを動作させる研究をしています。生物には「ツリガネムシ」という、微生物を用います。微生物をレゴブロックのように見立てて、機械を組み立て、コンパクトで高性能なシステムを作製することが目標です。この領域は、機械だけでなく、生物、化学の知識も必要な複合領域です。興味の幅が広い私には向いていると思いますが、学生にとっては大変かもしれません。

ロードバイクに乗るのが最近の趣味です。この趣味と私の研究にも、共通点があります。生き物が機械を動かす点です。自転車(約1メートル)とマイクロマシン(約100ミクロン)はサイズが異なりますが、ペダルを踏みこむとき、人を動力源にして進む自転車に自分の研究との類似性を見いだします。

本学の一員として、教員、学生とともに、存在感のある骨太の研究を進めていく所存です。今後ともよろしくお願いいたします。

# 研究室だより

## 計測システム研究室の近況報告

システム制御・ロボットコース (旧 生産計画学講座) 助教 今村 孝

卒業生・修了生の皆様、ご無沙汰しております。いかがお過ごしでしょうか？

計測システム研究室は再編を経て、機械工学系システム制御・ロボットコース内の研究室となりました。2010年度は教員3名(章 忠教授, 三宅哲夫准教授, 今村 孝助教)と、学生26名(博士課程4名, 修士課程14名, 学部4年8名)に加え、堀畑 聡准教授(日本大学), 戸田 浩非常勤講師, 石川康宏氏(石川医院)等, 多彩な学外研究者のご協力のもと, 研究・教育活動を行っております。

研究面では, 画像処理・信号処理の基礎研究に加え, 近年は, 自動車安全運転支援システムの研究を中心に据え, 2年に1度(次回は2011年末)の名古屋モーターショーへのデモ出展等を行っております。また, 予防安全技術・ウェブレット変換技術に関する

各シンポジウムを毎年主催しております(写真下段)。これらの行事を通じて, 研究活動を広く公開するとともに, OB/OGの皆様との交流の場となれば幸いです。このほか, 国内外での学会発表や海外研修なども活発化してきており(写真上段左), ますます活気のある研究室となっております。研究室の近況はWebページ(<http://is.me.tut.ac.jp>)にて随時公開いたしておりますので, ぜひご覧ください。また, 再編を機に, 計測システム (Instrumentation Systems) の頭文字をモチーフにした研究室ロゴ(写真中央)を作成いたしましたので, 併せてご報告いたします。

最後に, 卒業生・修了生の皆様のご活躍を祈念するとともに, 今後とも計測システム研究室へご支援頂きますようお願い申し上げます。



## 3D/4D マテリアル強度評価 (旧材料保証) 研究室の近況報告

材料・生産加工コース (旧 材料工学講座) 講師 小林 正和

同窓生の皆様には、お変わりなくご健勝にて各職場でご活躍のことと存じます。3D/4Dマテリアル強度評価研究室(旧材料保証研究室)は、現在、教員2名(戸田教授, 小林講師), 研究員2名, 秘書1名, 博士学生1名, 修士学生13名, 学部7名の計27名で研究活動を行っております。シンクロトン放射光を使った高分解能X線トモグラフィは、材料内部の構造・形態を3Dで観察, 評価できる手法です。我々の研究室では、これを4D化する研究を先導しています。4Dは  $(x, y, z, t)$  であり、様々な物理現象の時間発展挙動を直接観察できるだけでなく、各種物理量の4D分布を計測, 評価して現象の深く誤りない理解につながります。具体的には、方位や結晶粒界といった結晶学情報, き裂進展駆動力, 変位, ひずみなどの力学情報, 元素濃度などの化学情報の4Dマッピングが可能となっていま

す。我々は、最先端の3D/4Dイメージングを通じて複雑, 統計的, 局所的な各種材料の力学的挙動を解明し, その高度な信頼性保証と新材料の創製に貢献します。現在の研究テーマは、破壊・疲労挙動の実験およびイメージベースシミュレーションによる解明, 各種材料の信頼性保証, 金属材料の延性破壊機構の見直し, 3D/4D結晶方位顕微鏡の開発, 熱機械疲労特性評価, およびそれらの産業技術への応用・展開です。活動の詳細は、ホームページ (<http://four-d.me.tut.ac.jp/>) にて公開していきますので、ご覧いただければ幸いです。最後になりましたが卒業生・修了生の皆様の今後の更なるご活躍を心よりお祈りすると共に、今後も当研究室を暖かくご支援くださるよう心からお願い申し上げます。



## 精密加工研究室の近況報告

助教 川 島 貴 弘

卒業生・修了生の皆様、こんにちは。

すでにご存じの方もいらっしゃると思いますが、本年4月の大学再編に伴いまして、当研究室は『生産システム工学系』から『機械工学系』（機械・システムデザインコース）に所属が変更となりました。研究室名も“マイクロ・ナノ機械システム研究室”と新たにとなっております。スタッフは柴田隆行教授と私に加えて、本年4月より永井萌土助教がご着任され、半導体微細加工技術をベースとしたマイクロ・ナノマシニング技術およびMEMSデバイスの開発をテーマとした研究を行っております。また、機械加工による微細化をテーマとしてスタートした寄附講座“オーエスジーナノマイクロ加工学講座”も柴田教授（兼任）、村上良彦准教授、客員教授として堀内宰先生の体制に、梶田正美客員教授、野村光由助教をお迎えし、充実し

たスタッフにより精力的に研究が進められております。現在の研究室の構成は、博士課程1名、修士課程14名、学部生7名の計22名の学生と秘書1名となっており、スタッフと共にマイクロ・ナノの領域を対象とした研究に日々励んでおります。

大学再編によりまして所属・研究室名は新しくなっておりますが、“精密加工研究室”の礎の上に私どもは立っております。是非、豊橋にお越しの際は研究室にお立ち寄りいただき、後進への変わらぬご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。研究室一同、皆様のご来学を心よりお待ちしております。

最後になりますが、卒業生・修了生の皆様の今後の更なるご活躍・ご健康を心よりお祈りすると共に、今後も精密加工研究室改め“マイクロ・ナノ機械システム研究室”を暖かくご支援くださるようお願い申し上げます。



## 豊友会事務局から

### 平成 21 年度収支報告

収支の部	
前年度繰越金	4,755,506
会費（各系分配金）	0
普通預金利息	1,560
収支合計	4,757,066

支出の部	
会報等発送作業代	50,282
会報等発送代	164,135
次年度繰越金	4,542,649
支出合計	4,757,066

### 豊友会事務局

〒441-8580 愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1  
 豊橋技術科学大学 機械工学系内  
 FAX: 0532-44-6690  
 E-mail: admin\_2@tut-ob.org  
 URL: <http://www.tut-ob.org/dept2/>

会 長	中川 真
副 会 長	安部 洋平
会計担当	前野 智美
会報担当	山田 基宏
名簿担当	今村 孝
ホームページ担当	野田 善之

# 旧第三・第四工学系

## 電気・電子工学系／情報工学系より

### 旧電気・電子工学系／情報工学系の近況報告

#### 旧電気・電子工学系

河野 剛 士

修了生、卒業生の皆様も、ますますご活躍のことと思います。まずは、これまでの電気・電子工学系の再編についてご連絡します。今年度より、電気エネルギーや、ICなどの電子デバイス、さらにはこれらを支える電子材料などの教育研究を担当してきた電気・電子工学課程／専攻を、新たに電気・電子情報工学課程／専攻として再編しました。再編後は下記4つのコースで構成されています。

- ・材料エレクトロニクスコース
- ・機能電気システムコース
- ・集積電子システムコース
- ・情報通信システムコース

この再編では、電気・電子工学分野で重要となっている材料エレクトロニクス分野と情報通信システム分野を新たに追加し、これら分野を含めた最先端技術科学を担う次代の技術者・研究者の育成を行っていきます。

さて本年度も数名の先生方の異動がありました。まず、平成21年9月末をもって、高尾英邦先生が香川大学微細構造デバイス総合研究センターへ転出されました。平成22年3月にBaryshev Alexander先生がエレクトロニクス先端融合研究センター特任准教授に異動されました。平成22年3月末には金周映先生が退職・本学特任准教授へ異動され、その後同年6月末に光州市庁（韓国）に移られました。また、古川雄三先生が平成22年3月をもって退職されました。一方で、平成22年4月には、関口寛人先生が集積電子システムコース（旧電子デバイス工学分野）の助教、栗本宗明先生、田上英人先生が機能電気システムコース（旧電気システム工学分野）の助教にそれぞれ就任されました。また、村上義信先生が同機能電気システムコースの准教授に昇進されています。系事務室は再編後もこれまでと同じ部屋で、丸山利美さん、斉藤陽子さん、関美知代さん、中根ゆかりさんが、電気・電子情報工学、情報・知能工学（旧情報工学）の両系の仕事をサポートしてくれます。

再編後も豊橋技術科学大学では更なる変革も予想されますが、教職員一同、心機一転、今まで以上に社会に貢献できる教育・研究活動を行うよう精進してまいります。

#### 旧情報工学系

秋葉 知 良

卒業生、修了生の皆様、お元気でしょうか。今年の豊橋技科大は、学内再編という大きな節目を迎えました。情報工学系（旧4系）の大部分の先生は知識情報工学系（旧7系）と一緒に情報・知能工学系（新3系）に再編になりました。また、情報システム工学分野の大平先生、上原先生、和田先生、トヤ先生は電気電子工学系（旧3系）と一緒に電気・電子情報工学系（新2系）に加わりました。

4月から新入学の学部1年生および修士1年生を対象に、新課程の授業が始まりました。また、再編と同時に3学期制から2学期制へと移行し、学年歴も大きく変わりました。近況としては、夏休みの期間が昨年までの7～8月から8～9月と1ヶ月シフトし、10月からようやく2学期が始まります。

一方、学部2年から4年、および修士2年の学生はまだ旧課程に所属しており、新学部1年生が4年生になるまでの今後3年間は情報工学系としての活動も継続していきます。本年度は、この旧情報工学系としてJABEEの継続申請を行いました。11月には、卒業生、修了生の皆様数名にもご協力いただき、実地審査を受けることになっています。

さて、本年度も数名の先生方の異動がありました。平成21年10月末をもって情報処理工学分野の向井智彦先生が退職（一般企業に就職）され、平成22年3月末に情報システム工学分野の阿部洋丈先生が大阪大学へ転出されました。また、平成22年5月末には情報処理工学分野の関洋平先生が筑波大学へ転出されました。一方、4月には、計算機工学分野の講師として大村廉先生が、高専・両技科大教員交流制度にて、情報処理工学分野の准教授として平野雅嗣先生が着任されました。また、2009年11月に計算機工学分野の杉原真先生と情報処理工学分野の菅谷保之先生が准教授に、2010年10月に情報処理工学分野の佐竹純二先生が助教に昇任されました。

以上のように、今年に変化の激しい1年となりました。今後も旧系および新系にて、本学、情報工学、および社会の発展に貢献できる教育・研究を行うべく一層努力して参りたいと思っています。

## 旧電気・電子工学系／情報工学系教職員一覧

### ◆ 旧電気・電子工学系

〈基礎電気電子工学分野〉

教 授：太田昭男，福田光雄，井上光輝  
准 教 授：服部和雄，中村雄一  
助 教：稲田亮史，山口堅三

〈電気システム工学分野〉

教 授：長尾雅行，櫻井庸司，滝川浩史  
准 教 授：須田善行，村上義信  
助 教：栗本宗明，千坂光陽，田上英人  
技術専門職員：日比美彦

〈電子デバイス工学分野〉

教 授：石田 誠，若原昭浩，澤田和明  
准 教 授：朴 康司，岡田 浩<sup>※1</sup>，原田八十雄<sup>※2</sup>，  
河野剛士  
助 教：高橋一浩，関口寛人，赤井大輔<sup>※3</sup>  
技術専門職員：足木光昭，二川雅登<sup>※2</sup>

### ◆ 旧情報工学系

〈計算機工学分野〉

教 授：中川聖一，藤戸敏弘  
准 教 授：秋葉友良，杉原 真  
講 師：小林良太郎，大村 廉  
助 教：山本一公，藤原洋志  
技術専門職員：片岡嘉孝

〈情報処理工学分野〉

教 授：青野雅樹，三浦 純，栗山 繁  
准 教 授：福村直博，菅谷保之  
助 教：佐竹純二

〈情報システム工学分野〉

教 授：大平 孝，梅村恭司，中内茂樹  
准 教 授：上原秀幸，和田和千  
助 教：永井岳大  
助 手：ウリン トヤ  
技術専門職員：宮脇治雄

### ◆ 事務官

斉藤陽子，丸山利美，中根ゆかり，関 美知代

### ◆ グローバルCOE事務員

橋詰恒雄，杉浦寛子，小林裕子

※1 インテリジェントセンシングシステムリサーチセンター

※2 グローバル COE 特任

※3 ベンチャービジネスラボラトリー

### ◆ 同窓会役員

〈旧 電気・電子工学系〉

村上義信，河野剛士，稲田亮史，田上英人  
E-mail: admin\_3@tut-ob.org

〈旧 情報工学系〉

山本一公  
E-mail: admin\_4@tut-ob.org

### 平成21年度

### 旧電気・電子工学系／情報工学系同窓会会計報告

平成21年度決算

#### ■収入の部

平成20年度繰越金	8,612,600
平成21年度終身会費入金(1名)	10,000
預金利息	2,539
収入合計	8,625,139

#### ■支出の部

平成21年度会報発送費	269,720
平成21年度会報発送作業費	113,390
国際学会発表奨励金	300,000
小計	683,110
次年度繰越金	7,942,029
支出合計	8,625,139

# 研究室だより

## スピン・エレクトロニクス研究室

電気・電子工学専攻 修士2年

山田 耕太郎

卒業生・修士生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様におかれましてはそれぞれの職場にて大いにご活躍のことと存じます。

本研究室は名称を本年度よりスピン・エレクトロニクス研究室に改め、井上教授のご指導の下、ますます研究活動に学会発表に、そしてレクリエーションに励んでおります。当研究室では特に磁性材料において顕著に表れる“スピン”にまつわる現象を利用した基礎研究・応用研究を進めています。センサーや情報処理デバイスからエネルギー分野まで幅広い研究を行っています。色々なデバイスが出来上がりはじめ、また別の機会に皆様へ良い報告ができることを励みに、現在研究室のメンバー一丸となり奮起して研究活動に取り組んでいます。

さて、今年はスタッフや研究室のメンバーに大きな異動がありました。まず、ホログラムメモリの分野でご指導頂いた渡邊先生が昨年度で退職されました。また、林先生が国際交流センターの特任准教授へ異動、バリシェフ先生がテニユアトラック准教授へ異動されました。また、今まで一緒に研究をしてきた研究員の

鄭さんと許さんが韓国へお帰りになり、さらに長年にわたり井上研究室を支えてきて下さった金先生も韓国でお仕事をされることになり、研究室を離れることになりました。他にも終了したプロジェクトに伴い、これまで一緒に研究してきた企業の方々がそれぞれの職場へ帰することとなりました。しかし、お別ればかりではなく、4月からはカロリトロンクス分野で中村先生のグループと一緒に研究活動をするようになり、さらに研究の幅と仲間が増えました。その結果、当研究室には現在、博士課程3名、修士課程20名、学部生8名が在籍しております。

写真は井上先生宅で行われた夏のビアパーティーの様子です。研究室の様子は Web (<http://www.maglab.eee.tut.ac.jp/index.html>) に掲載しています。今後の研究室の大きなイベントとしては忘年会と研究室旅行が企画されています。近隣にいらっしゃるOBの方々は今でもイベントに参加して頂いています。お近くにお立ち寄りの際は是非研究室へいらして下さい。研究室一同、皆様のさらなるご活躍を心よりお祈りしております。



## フォトニクス研究室

電気・電子情報工学専攻 修士1年

相原 卓磨

卒業生、修了生の皆様方におかれましては、益々ご健勝のことと存じます。フォトニクス研究室に関連する近況を報告いたします。

本研究室は発足から6年目を迎え、現在は福田光男教授、山口堅三助教、新井紳一非常勤講師、森田知恵子秘書とともに修士課程7名、学部生6名が在籍しております。その中でマレーシアからの留学生が2名、中国からの留学生が1名と国際色豊かな構成で、日々研究に励んでおります。研究活動に関しては、光を用いたものづくりを基本とし、とりわけ以下の4つのテーマに分かれ推進しております。

- (1) 光電子融合デバイスの開発、
- (2) 光センシング用ファイバブロープの開発、
- (3) 光演算器の開発、
- (4) 光異物検出装置の開発、

これらの研究成果を基に国内外の会議に参加しており、今年度は修士1年の佐々木、久保山、ユーの3名が国際会議（フランス、台湾）へ、修士2年の遠山、1年の佐々木、久保山、ユーの4名が国内会議（北海道、長崎）へとそれぞれの研究成果を発表しております。ま

た、(4)の研究は昨年度から開始したものであり、本年に愛知県「知の拠点」重点研究プロジェクトの1つとして採用され、これからの一層の発展が見込まれます。これも諸先輩方のこれまでの功績の賜物であることと感謝しております。

研究室行事としては、新入生歓迎会、他研究室との合同遠足、納涼祭などを行い研究室の親睦を深めております。また、年末には忘年会、年度末には追い出しコンパを企画しております。その折には、先輩方の積極的なご参加、ご協力をお待ちしております。

これまでの研究室の情報につきましては、Web Site (<http://www.photon.eee.tut.ac.jp>)にて公開しておりますので、是非ご覧頂けると幸いです。

卒業生、修了生の皆様方におかれましては大変お忙しいことと存じますが、豊橋へお越しになる機会がございましたら研究室にお立ち寄りください。研究室一同、心よりお待ち申し上げます。また、その際に、在学中や卒業、修了後の貴重なお話をお聞かせ頂ければ嬉しく思います。

末筆ながら、今後のさらなるご活躍をお祈り申し上げます。





## 誘電・絶縁現象計測診断システム工学研究室

電気・電子工学専攻 修士2年

木田 智志

卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様におかれましては、それぞれの職場で日々ご健勝のことと存じます。

それでは、本研究室の近況を報告致します。現在の研究室の構成は、長尾雅行教授、村上義信准教授、新たに加わった栗本宗明助教の3名を中心として博士1名、修士12名、学部9名、秘書1名の計26名です。本年度は先生を新たに迎え、学部生も増えた新体制となりましたが、研究室一丸となって日々研究に勤しんでおります。

研究内容は、主に高分子材料の高電界電気物性と電気絶縁性能の向上に関する研究、電気絶縁材料の絶縁劣化診断に関する研究、極限環境領域における電気絶縁構成に関する研究、超音波顕微鏡の絶縁劣化診断への応用に関する研究を行っています。

研究室行事として、毎年恒例の夏ゼミ旅行があります。勉強会として「電気設備の絶縁診断」をテーマに

発表会を行い、その後、ソフトボールで親睦を深めました。今年は伊勢へ行き、伊勢神宮で研究室のさらなる発展を祈願致しました。本研究室では一人一芸を目標にしており、研究だけでなく宴会芸も日々精進しています。今年も学部生が宴会を盛り上げてくれました。

本研究室の情報については長尾研究室のwebページ (<http://dei.eee.tut.ac.jp/>) にて公開していますので、お時間のある時に一度目を通して下さい。皆様ご多忙とは存じますが、豊橋へ来られる機会がありましたらお気軽に研究室へお立ち寄り下さい。長尾・村上研究室一同心よりお待ちしております。その際、大学在学中や就職活動、実際の現場での貴重な体験などの話を聞く事ができれば幸いです。

最後になりましたが、先輩方の今後ますますのご活躍を心よりお祈り申し上げます。



## 視覚認知情報学研究室

電子・情報工学専攻 博士2年

西野 顕

視覚認知情報学研究室（旧称：生体・神経情報工学研究室）の卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様におかれましては、ますますご活躍のことと存じます。

学系再編に伴い、本研究室は旧称の生体・神経情報工学研究室から視覚認知情報学研究室へと名称を変え、中内教授のもとでより一層研究に励んでおります。この数年の間に、高専専攻科からの編入や博士課程進学、さらに新しい先生方の赴任もあり、現在研究室は中内教授、南准教授、鯉田准教授、永井助教、研究員2名、博士学生4名、修士学生10名、学部生4名、秘書2名という大所帯となりました。これに相成って、学生一同の研究活動もまた活発化するばかりです。

本研究室は現在、「視覚科学グループ」「視覚脳波グループ」「視覚技術グループ」の3つの研究グループに分かれ、各々が日々精進を続けています。視覚科学ならびに視覚脳波グループにおきましては、今年度より新学術領域研究「質感認知の脳神経メカニズムと高度質感情報処理技術の融合的研究」がスタートし、今年9月にキックオフシンポジウムが開催され、今後の研究展開に大きな期待が寄せられています。それを受けて、研究の進行を加速すべく、これまで使用して

きた実験室（情報通信実験棟104室）に新しい暗室とシールドルームを設置しました。一方で視覚技術グループは、肌の水分量可視化装置がNHK「アインシュタインの眼」に取り上げられる、ファンデーションの定量・分布計測システムの開発がプレスリリースされるなど、社会に影響を与える研究成果を次々と生み出しています。いずれのグループも対外発表に精力的に取り組んでおり、今年度は日本色彩学会発表奨励賞ならびにAnnual ECNS/ISNIP Conference Award受賞という形で評価を頂くことができました。私どもの研究活動につきましては、現修士1年生の皆さんによってリニューアルされました研究室ホームページ <http://www.vpac.cs.tut.ac.jp>にて随時ご報告させていただきますのでどうぞ御覧下さい。

今後も新入生歓迎会、研究室旅行、忘年会、追いコンなど研究室のイベントの都度、皆様にご周知いたしますので、もしご都合がございましたらどうぞご参加ください。また、その他にも豊橋近郊にいらっしゃることがあればお気軽に訪問ください。在学中ならびに就職後の経験についてお話いただければ幸いです。

最後になりましたが、皆様の更なるご活躍とご健勝を心よりお祈り申し上げます。



## 画像情報メディア研究室

情報工学専攻 修士2年

山 脇 健

卒業生・修了生の皆さん、いかにお過ごしでしょうか。皆さんそれぞれが職場で活躍なさっていることと存じます。

研究室内についてお知らせする前に、菅谷先生のことについてお知らせします。菅谷先生は2009年11月1日付けで准教授に昇進され、研究室一同で祝賀しました。

画像情報メディア研究室は菅谷保之准教授の下で修士2年が5名、修士1年が4名、学部4年が4名の計14名という過去最多の人数となっております。また、学部4年で本研究室としては初の留学生（インド）が加わり、これまでとはひときわ違った雰囲気となっております。

研究室では、物体の3次元復元および表現、楕円検出および複合現実、画像の背景領域推定、車載シートのシワ検出、交通標識の認識といった大きく分けて5つの分野で研究が行われております。これまで皆さんが研究された内容を引き継いで深い研究をしたり、あるいはこれまで行わなかった分野についての研究をしたりしております。行った研究は国内のシンポジウム

や、国際会議へと原稿を提出したりすることで学外への発表もして、他の研究者との交流も行っております。また、学部4年の特別実験報告会、修士2年の審査はもとより、今年度より系の再編成を受けて修士1年が年末に中間審査を受けることになりました。それらに向けて各々が研究や準備にも努力をしています。研究室メンバーの研究内容については研究室Webサイト (<http://www.iim.ics.tut.ac.jp/>) をご覧ください。

研究室内の行事としては、ほぼ毎月行っている研究室内ボウリング会のほか、夏休みに行われる系合同のスポーツ大会、そして近隣研究室との合同ボウリング大会も行っております。このほか高専からの実習生を迎えた際には送別会なども開き、研究室内メンバーの親睦を深めております。

豊橋や大学にお越しの際は、どうぞご一報ください。研究室一同、歓迎いたします。そして、卒業・修了後の仕事を通じて得た経験談など、研究室に居るだけでは分からない、外の世界からの生の声を是非お聞かせいただければと思います。今後とも、皆さんのますますのご健康とご活躍をお祈りしております。



## 旧3・4系同窓会国際学会発表奨励金

平成17年度より、系内同窓会活動の活性化および大学への貢献事業の一環として、国際学会にて研究成果発表を行う旧3・4系修士課程の学生への奨励金助成（10万円）を行なっております。平成21年度後期ならびに平成22年度前期は、以下の4名に助成を行いましたので、ご報告させていただきます。

（平成22年度後期分につきましては現在公募中です。）

### 平成21年度旧3・4系同窓会国際学会発表奨励金採択者（後期）

所属	学年	所属研究室	氏名	行き先
電気・電子	平成21年度修了	長尾・村上研究室	岡崎 喬之	アメリカ
電気・電子	修士2年	長尾・村上研究室	瀧野 孝浩	アメリカ

### 平成22年度旧3・4系同窓会国際学会発表奨励金採択者（前期）

所属	学年	所属研究室	氏名	行き先
電気・電子	修士2年	長尾・村上研究室	鳥本 慎也	アメリカ
電気・電子	修士2年	太田研究室	牧原 知秀	アメリカ

## 国際会議参加報告

### 元 電気・電子工学専攻（平成21年度修了） 岡崎 喬之

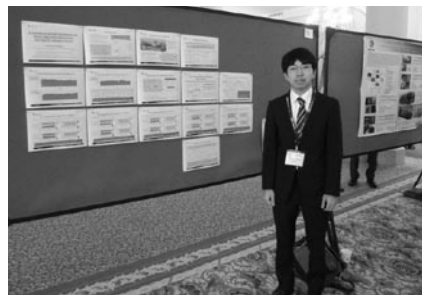
2009年10月アメリカで行われた絶縁・誘電現象の国際会議CEIDP2009に参加し、ナノコンポジットのセッションでポスター発表を行ってきた。発表内容はナノコンポジットの電気的特性を把握するために絶縁破壊の強さ、空間電荷測定など様々な測定を行い考察したもので、慣れない英語ながら世界の様々な国の研究者と活発な議論を行うことが出来ました。また自分のセッションでの議論だけでなく、他のセッションにおいても世界の最新の研究に触れることができました。今回の経験は今後の研究に関する有効な情報を得られただけでなく、知見を広め国際的感覚を身につけることにおいても非常に有意義なものとなりました。

### 電気・電子工学専攻 修士2年 瀧野 孝浩

私は2009年10月にアメリカのバージニア州で開催された絶縁・誘電現象の国際会議CEIDPに参加してきました。CEIDPでは、部分放電計測のポスターセッションで『インバーターサージ下における部分放電電流の観測』と題して発表してきました。国際学会でポスター発表することによって、学んだことがあります。それは、伝える意思が大切であるということです。私は英語が苦手であるため、ポスターの説明や質疑応答でとても苦戦しました。しかし、自分が伝えたいことを相手が察してくれたり、相手が質問したいことが雰囲気や図でわかかったりと、想像以上にコミュニケーションがとれました。この度は奨励金に採択して頂きましてありがとうございました。

### 電気・電子工学専攻 修士2年 牧原 知秀

この度は国際学会発表奨励金に採択して頂きましてありがとうございました。私は2010年8月1日～6日まで、アメリカのワシントンDCで開催された応用超電導会議ASC 2010に参加し、『Evaluation of self-field distributions for Bi2223 tapes with oxide barriers carrying DC transport current』という題目で研究成果の発表を行いました。合わせて、関連研究の情報収集を行いました。世界各国の研究者と交流したことは非常に有意義な経験になりました。一方で、語学力とコミュニケーション能力の向上が必要であると痛感しました。



# 旧第五工学系

## 物質工学系より

### 学内近況報告

環境・生命工学系 系長補佐（旧物質工学系担当） 伊津野 真 一

同窓生の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。今年度の本学での一番大きな変化は、何と言っても学内再編です。同窓会報にもいたるところでこの話題が見つかると思います。ここでは旧物質工学系関連に絞ってご紹介いたします。



基本的には旧エコロジー工学系と旧物質工学系が一つの系となり「環境・生命工学系」が発足しました。再編された5つの工学系の中で環境・生命工学系は第4工学系です。これとは別に、社会の変化に柔軟に対応できる技術者を養成する組織として「総合教育院」が設置されました。再編による新課程への学生の受け入れは今年度からで、学部と大学院博士前期課程のそれぞれ1年生だけが新しいカリキュラムになっています。したがって今のところ大部分の在學生は物質工学課程、専攻ということです。博士後期課程の再編は平成24年度からの予定です。研究室、実験室等はこれまでのままです。再編により学年歴は大幅に変更されました。豊橋技術科学大学独特の3学期制はなくなり2学期制となりました。授業時間も75分から90分になり、これらの変化には、教員の方がまだ少し戸惑い気味です。

環境・生命工学系のなかで「物質」または「化学」がおもてには見えにくくなったことは事実ですが、なくなったわけではありません。各系はコース制を導入しており、環境・生命工学系は「未来環境工学コース」と「生命・物質工学コース」の2コースから成り立っています。それぞれのコースは、「先端環境技術分野」と「生態工学分野」、「生命工学分野」と「分子機能化学分野」を含んでいます。先端環境技術分野には松本明彦教授、水嶋生智准教授、佐藤裕久助教、生態工学分野には角田範義教授、大北博宜助手、生命工学分野には吉田絵里准教授、吉田祥子講師、分子機能化学分野には、伊津野真一、竹市力教授、岩佐精二准教授、齊戸美弘准教授、平田幸夫准教授、河内岳大助教、柴富一孝助教、原口直樹助教、藤澤郁英助手が配置されています。旧物質工学系から他系等へ移られた先生方もおられます。松田厚範先生、武藤浩行先生、河村剛先生、服部敏明先生は「電気・電子情報工学系（2系）」へ、大串達夫先生は総合教育院へそれぞれ移られました。ただし兼務教員として4

系の教育、研究にも携わっていただいております。

再編に伴う変化とは別に、旧物質工学系からは、本年3月に定年退職された先生がお2人おられました。逆井基次先生と青木克之先生です。今年度は客員教授、非常勤講師として引き続きご支援をいただいております。伊藤浩一先生、亀頭直樹先生にも非常勤講師として物質工学系の授業をお手伝いいただいております。

以上のように大学の組織は再編により大きく変わりました。旧物質工学系でこれまで培ってきた化学を基礎とする研究、教育の体制は技術科学の中でも重要な分野です。我々はこれをより一層高いレベルへと発展させていかなければなりません。卒業生の皆様におかれましても、新しい環境・生命工学系をぜひご支援いただければ幸いです。

## 研究室だより

### 角田・水嶋・大北研究室

環境生命工学専攻 修士1年 中 林 愛

卒業生、修了生の皆様におかれましては、ますますのご健勝にてご活躍のことと存じます。現在の角田・水嶋・大北研究室は、角田教授、水嶋准教授、大北助手指導の下、博士2名、修士17名、学部18名、計37名から成る大変賑やかな研究室となっております。

現在、角田・大北研究室では、「廃農ビofilm材の炭素材料再資源化技術の開発と性能評価」、「自動車三元触媒用助触媒の開発と性能評価」、「光を利用した水溶性有機無機有害物質の分解除去およびエネルギー変換触媒の開発と性能評価」を主テーマとした環境およびエネルギー分野における新規触媒に関する基礎、並びに応用研究を行っています。

一方、水嶋研究室では、「高効率VOCプラズマ分解システムの開発」、「メタンの部分酸化によるホルムアルデヒドの直接合成」、「有機化合物の部分酸化反应用固体触媒の開発」というテーマをもとに環境にやさしい化学反応プロセスや、より効率的な環境浄化技術の構築を目指した新しい触媒および触媒反応システムに関する

る研究を行っています。

また、私達の研究室では、上記、精力的な研究活動のほかにも研究室行事も盛んに行っています。今年度は、4月に花見、5月には新入生歓迎ソフトボール大会ならびにバーベキュー大会を行い、さらに、年末には通年行事とは興向を変更し、忘年会を兼ねた研究室旅行を新規に計画しています。

卒業、修了された諸先輩方におかれましては、ご多忙とは存じますが、豊橋方面へ来られた際には、どうぞお気軽にお立ち寄り下さい。研究室一同、心から歓迎致します。最後になりましたが、皆様の今後の更なるご活躍を心からお祈り致します。

## 齊戸 / 平田研究室

物質工学専攻 修士2年 寺岡 健太

卒業生・修了生の皆様、お元気にご活躍のことと存じます。現在の齊戸/平田研究室では博士4名、修士7名、学部6名に加え、仮配属7名により日々研究に明け暮れています。

当研究室での近年の研究テーマを簡単にご紹介します。齊戸研では、繊維やポリマーを充填した針型デバイスによる高感度環境分析法の開発、繊維充填キャピラリーカラムの開発、繊維誘導体化分離媒体の開発や保持挙動などの研究を行っています。平田研では水中微量有機物のSFE-GC分析、キャピラリー-SFCによるデュアル検出法の検討やSFEによる静的抽出および動的抽出の影響などの研究を行っています。

学内再編に伴い、物質工学系改め環境・生命工学系へととなりました。その影響で3学期制から2学期制に移行し、講義時間が75分から90分になりました。再編以降に入学した学生は環境・生命工学過程・専攻として卒業・修了します。未だに困惑している部分もありますが、単位の取得に選択性が増えたことや他大学の友人と休みを合わせやすくなったことなど、メリットも大きく感じています。

皆様方の職場に実務訓練生として本学の学生がお世話になることも多いと思います。この場を借りてお礼申し上げます。実務訓練での経験は貴重な体験であったと実感しております。その経験を活かし、今後の学生生活や職場で取り組む所存です。

ときに先輩方がリクルート等で研究室に立ち寄ってください。在学当時や職場での経験など貴重なお話をいただき幸いです。豊橋近郊にお越しの際には、本研究室へ気軽にお立ち寄りください。先輩方の御来校を一同心よりお待ちしております。最後になりましたが、先輩方の更なるご活躍とご健康をお祈りしております。

## 岩佐・柴富研究室

物質工学専攻 修士2年 村上 紗郁

卒業生、修了生のみならず、いかがお過ごしでしょうか。諸先輩方はそれぞれの職場で大いにご活躍されていることと存じます。現在の岩佐・柴富研究室は、博士3名、修士7名、学部3名で、更にJENESIS 10プログラムの留学生が5名加わり、計18名です。中でも女子学生が留学生も含めて6名所属しており、当研究室始まって以来の華やかで賑やかな研究室となっています。現在の当研究室のテーマは、「触媒的不斉反応の開発」や「分子センサーの開発」などがあり、学生とスタッフが協力して研究を推進しています。研究成果は、JACSやAngew. Chem. Int. Ed.等に掲載されました。

最近の研究室イベントとしましては、毎年10月恒例となった名古屋大学との交流が先週ありました。今年は雨のため、スポーツ交流は中止となったのですが、最先端有機化学の話題から研究室の特徴など、大いに語り合い、刺激を受けてきました。皆様ご多忙とは存じますが、豊橋近郊に来られる際には是非当研究室にお立ち寄りいただき、ご活躍の様子をお聞かせください。研究室一同楽しみにしております。最後になりましたが、先輩方の更なるご活躍をお祈り申し上げます。

## — 会計報告旧5系同窓会会計報告 —

昨年度と同様に仕分け作業代は、郵送料を安くするために郵便番号順に仕分ける作業を行うアルバイト代です。また、名簿管理経費が0なのは昨年程の作業量が無かったため、タックシール作成費に含めることが出来たためです。ホームページ作成・管理費が0なのも今年は更新の作業をしていないためです。

■収入の部	平成20年度予算案	平成20年度決算	平成21年度予算案
前年度繰越金	2,381,712	2,381,712	2,269,796
会費	400,000	330,000	0
預金利息	4,000	3,538	1,000
小計	404,000	333,538	1,000
収入合計	2,785,712	2,715,250	2,270,796

■支出の部	平成20年度予算案	平成20年度決算	平成21年度予算案
会報郵送料	130,000	125,085	130,000
タックシール作成費	10,000	10,000	10,000
袋詰め作業代	25,000	22,800	25,000
名入封筒	0	46,420	0
仕分け作業代	0	16,000	16,000
謝礼	14,000	10,000	14,000
名簿管理経費	10,000	0	0
ホームページ作成・管理費	5,000	0	5,000
小計	194,000	230,305	200,000
次年度繰越金	2,309,266	2,269,796	2,070,796
支出合計	2,503,266	2,500,101	2,270,796

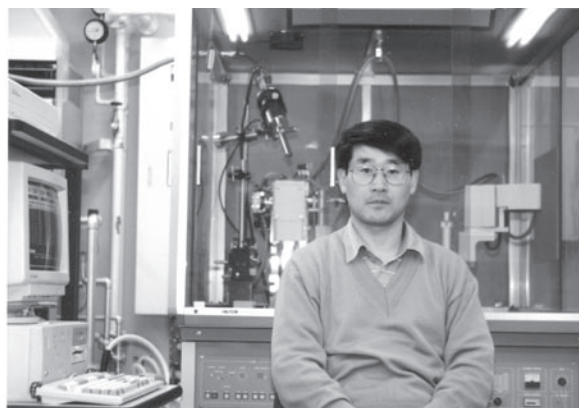
## 退職教員より

「天伯より転載」

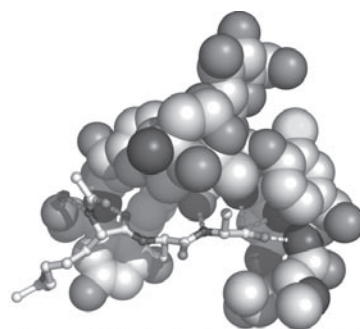
### X線結晶構造解析とともに 物質工学系 教授 青木 克之

平成元年に本学に赴任以来21年間、物質工学系において生命化学の教育・研究に携わり、本年度定年を迎えました。この間、研究面では生体分子の働きを特にその立体構造から理解しようとする立場からX線回折法を用いた研究を行ってきました。X線回折法は、分子の三次元構造をあたかも顕微鏡で拡大して見ているかのように得ることができるので、「百聞は一見にしかず」で直ちに次のインスピレーションへと繋がる、強力な構造解析法です。赴任当時、本学には単結晶自動X線回折計がまだ設置されておらず、当時の高山雄二系長から「実験機器が無いから研究できない」では困ります」と赴任当日に念を押され、しばらくの間、友人の韓国の教授にデータ測定を頼んだり、岡崎の分子研の共同機器を利用しました。その後、平成4年度に本学共同利用機器として設置が成り、以後これまで17年間利用させていただきました。このことは、現在、全国の各大学でこの種の大型実験機器の新規の導入はもとより既設機器の更新・維持も困難な状況下では、大変有難いことでした。平成14年に本学分析計測センターが当番校として「第6回全国国立大学機器・分析センター会議」を開催し、各大学の研究を支える基盤としての大型実験機器の充実を国に対して要請しました。この要求は現在、分子研を中心とした「化学系研究設備有効活用ネットワーク構築共同事業」により行われていますが、実情は未だに極めて不十分なものであり、引き続き全国規模での強力な活動が望まれます。

研究では、「山椒は小粒でもピリリと辛い」ような研究を心がけました。X線回折法による研究を一つ紹介します。抗生物質バンコマイシンは現在その克服が社会的問題になっている院内感染菌に有効な唯一の薬でしたが、最近、バンコマイシンが効かない細菌の出現により、新たな抗菌薬の開発が緊急の課題となっています。バンコマイシンは細菌細胞壁合成前駆体ペプチド末端のD-Ala-D-Alaを認識して結合し、細菌の細胞壁合成を阻害することにより抗菌活性を発現しますが、バンコマイシンが効かない細菌ではこのペプチド末端がD-Ala-D-lactateに変化しています。私たちはX線回折法により、バンコマイシンがD-Ala-D-Ala末端をどのように認識するのか、また、D-Ala-D-lactate



とどのように結合するのかを明らかにし、新たな抗菌薬開発のヒントを得ることができました。このような研究を通して、こうした生物の生存をかけた戦略の巧みに驚かされます。昨年度のノーベル化学賞に、X線回折法によるリボソーム（生物の細胞内にあるタンパク質合成「工場」）の構造と機能の解明の研究が授与されました。私が大学生の頃、リボソームは巨大で複雑な分子のため、結晶化するのは不可能と考えられていましたが、A.E. Yonath博士（イスラエル）が1980年にその結晶化に成功、2000年～2001年にV. Ramakrishnan博士（英国）とT.A. Steitz博士（米国）が構造解析に成功しました。このような生命の仕組みの本質に迫る息の長い研究は、研究者自身の卓越した能力は勿論ですが、腰を落ち着けてこのような基礎研究ができる環境が不可欠と思われます。我が国においても基礎研究の充実が叫ばれて久しいのですが、その重要性を改めて感じます。退職後も好奇心を旺盛にして、X線解析による生命の本質に迫る新発見を楽しみにしたいと思います。



バンコマイシンとそのターゲットとの結合

## 邂逅と開眼

物質工学系 教授 逆井 基次

現在あまり使われていない「邂逅（カイコウと読み、意味は巡り会い）」と言う言葉は、私の青春時代（18歳～25歳）には、特に、大学生の間で好んで使われていたように記憶しています。これは、函館出身の思想家・文芸評論家であった亀井勝一郎の言葉、「人生邂逅し開眼し瞑目す」、の影響でしょう。

本学の創設と共に豊橋に着任して、星霜ここに32年、良き師、良き友、良き後輩・学生に恵まれた悔いの残らない半生を送ることが出来ました。大学人としての使命である「教育」と「研究」については、「真の大学教育は研究を通じて行なわれる」を言い訳に、研究志向で邁進した32年間だったようにも感じております。

退職を機に、「2人の恩師との邂逅なくして現在の私は存在しえなかった」、そんな思いを綴っておきます。

大学入学直後、将来に対する可能性、希望そして夢が無限に広がる中で、それらを実現するためには、何から手をつけ始めたらよいか分からない苦悶の日々の中でのS先生との邂逅が私の学問に対する姿勢を形成してくれました。キャンパスに近いご自宅まで押しかけると、S先生は私の日々の苦悶に熱心に耳を傾けてくれました。そして、傍らの書棚か1冊の本（化学量子論の初歩）を取り出し、まずはこれを完読すること、そして理解度を整理するために、各章を読み終えたらその要約をノートに箇条書きにすること、の二点を指示されました。完読後更に2度ほど新たに書籍をお借りし同様な勉強（訓練?）を繰り返したある日、「今後は自分の将来をイメージする中で好みの書籍を自ら探し独学をしなさい」と指示されました。教わることから自ら学ぶことへの私の転換点となり、この独学姿勢は今に至るまで続いております。私は10年を一区切



アテネのホテルにて（2005年）

りとして研究の方向を大きく変えてきましたが、その都度、「世界的名書籍（名著）」が常に私の師となって、これら新たな研究分野への参入に不可欠となる学問の基礎形成を助けてくれています。

大学院修士課程・博士課程における研究指導教官、N先生、との邂逅が私に研究者としての「自覚と自信」を与えてくれました。自然科学に対し研究者は謙虚でなければならない、科学の前に老若男女全て平等でなければならない、本物の研究とは何か、一流国際誌に論文を投稿することの重要性、等々、N先生との邂逅なくして研究者としての私の今は無いと思っています。過去の研究と決別して新たな研究分野に参入する際の勇気、新規参入研究分野の国際舞台で他に伍し、そして先導する研究能力・自信、等々、多くの宝物をN先生から授かりました。そして更に、論文投稿の都度、厳しくも本質的な指摘、示唆、激励を与えてくれた一流国際誌の論文査読者達が、新規研究分野で私が成長していくための、かけがえの無い「師」となっています。

A君とB君が石ころ道を歩いているとしましょう。A君は石ころの中に、あちらこちらにダイヤモンドが散在していても、全く気付くことなく通り過ぎてしまいます。一方、B君はダイヤモンドに気付いても、それらには目もくれず、誰が見ても見栄えのしない石ころを見つけ出し（石ころと邂逅し）、大事に大事に磨き上げ、やがて、ダイヤモンドよりも貴重な宝物へと変えてしまいました。この例え話のように、その後の人生を変えてしまう素晴らしい邂逅は皆さんの身の回りに沢山あると思います。つまり、素晴らしい邂逅と開眼は己の「心のあり方」次第のようです。



稲垣道夫教授・創設期学生達と共に（1980年）



# 旧第六工学系

## 建設工学系より

### 学内近況報告

教授 廣 島 康 裕

この夏は異常な猛暑で大変でしたが、OBの皆様におかれましては無事乗り越えられ益々ご健勝でご活躍のことと存じます。どうやら本系の近況報告は学生生活委員会委員の仕事のようなので、今回は本年度委員である私から報告いたします。

平成22年度には全学で学科再編が実施され、建設工学系（第6工学系）は建築・都市システム学系（第5学系）に変わりました。他の4つの系では大幅な再編となりましたが、本系の場合、従来の第6工学系の組織を中心としつつ旧第9学系の計画・経営分野から数名の先生方が専任教員として加わるといった比較的軽微な再編にとどまりました。ただし、学科名から「工学」が消え、「建築・都市システム学系」となっています。これは、従来の学問分野である建築学と土木工学を融合させるだけでなく、社会科学・人文科学の要素を積極的に取り入れた新しい学問分野にチャレンジしようという方向性を反映したものです。

本課程の教育に関しては、従来からJABEE認定を受けている建築コースと社会基盤コースの2コースに対応して行われてきましたが、そのカリキュラムも本年度の再編に合わせて、また建築士資格や測量士資格の認定要件が厳格化されたことを考慮して大幅に改定されました。これにより、建築と土木の融合を過度に意識した無理な共通必修科目が減るとともにコース間での違いがより明確になりました。例えば、かつて土木系高専出身学生の多くを苦しめてきた3年次の「建設設計演習」が社会基盤コースの必修科目から外れる一方、建築コース学生が興味のない土木系科目の履修を強いられるということもなくなっています。

さて、この1年間の本系関連の人事異動は以下の通りです。まず、3月には長年にわたり本系で教鞭をとってこられた加藤史郎先生が定年退職されました。加藤先生は引き続き4月から特任教授として本学に勤めておられます。また、4月には建築環境分野の宋城基講師が退職され、一時韓国に帰国されておられましたが、9月から広島工業大学環境学部准教授に就任されておられます。一方、新任教員として、4月に「建築・施設デザ

#### 教 職 員 一 覧

##### ■新任

増田幸宏（2010年4月、前職は早稲田大学高等研究所准教授）

松本幸大（2009年10月、前職は米子高専建築学科助教）

##### ■退職

加藤史郎（2010年3月、定年退職）

宋 城基（2010年4月、退職）

##### ■高専交流人事

辻子裕二（2010年4月より福井高専から本学准教授として1年間赴任）

##### ■現職（2010年9月現在）

###### [建築・都市デザイン学分野]

教 授：松本 博(系長補佐)、山田聖志、大貝 彰  
松島史朗、浜島昭二(兼任)、山本 淳(兼任)

准教授：泉田英雄、浅野純一郎、中澤祥二

真田靖士、増田幸宏、中森康之(兼任)

助 教：谷 武、源城かほり、松井智哉、松本幸大

助 手：渋谷達郎

###### [都市・地域マネジメント学分野]

教 授：青木伸一(系長)、廣島康裕、河邑 眞、三浦均也  
井上隆信、山口 誠、宮田 譲

藤原孝男、北田敏廣(兼任)、木曾祥秋(兼任)

准教授：辻子裕二、澁澤博幸、加藤 茂

助 教：横田久里子、細野康代

###### [両分野]

技 官：金田隆文、片岡三枝子

イン領域」の准教授として増田幸宏先生が早稲田大学高等研究所准教授から着任されました。増田先生は建築・都市環境工学および設備工学をご専門とされておられます。また、昨年度の近況報告において着任予定と紹介されていた本学OBの松本幸大先生が「構造・空間デザイン領域」の助教として昨年10月に無事着任されておられます。さらに、高専との交流人事により、福井高専から本学OBの辻子裕二先生が准教授として1年間の予定で赴任されておられます。次に、再編に伴う配置換え人事として、4月に旧9系の計画・経営分野から山口誠教授、宮田譲教授、藤原孝男教授、澁澤博幸准教授の4先生が本系専任教員として加わり、「都市・地域マネジメント分野」に所属されておられます。

以上の陣容のもと、青木伸一系長以下、教職員それぞれが教育、研究、地域連携活動、その他に日夜頑張っています。OBの皆様におかれましては、今後益々ご健康

でご活躍されますようお願いいたしますとともに、引き続き本系に対してご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 退職教員より

### イスタンブールから

### —32年勤めた思い 特に卒業生と共同研究ができたことに大いに感謝—

名誉教授 加藤 史郎

今、SSCS 2010-ECSS (9月20～24日)の鉄骨系国際会議に参加するためイスタンブールにいます。同窓会から原稿依頼を頂き、9月24日の朝早く(時差が取れないので早く起きてしまう、年かな?)ホテルの部屋で書いています。1日目の一番目に割り当てられた発表はもう済ませ、2日目は発表を聞くとともに14セッション(鋼構造物製作マネジメント、座屈、疲労など)、16セッション(最適形態、非線形解析法など)の司会もしました。ヨーロッパと日本では、鋼構造の製作に関する責任体制が異なっており、注文主・設計者と製作者(工場)の間で、第3者が種々のチェックをする仕組みとなっているようです。日本の建築の場合は、設計者と製作者が直接に協議し問題の解決に当たりますが、この点が大きく違います。これは、製作に関する契約制度に直接関連し、トルコも含めヨーロッパでは、鋼構造製作がゼネコンの下請けにならない理由がここにありそうです。

会議の合間に、ハギア・ソフィア、ミフリマ寺院などの写真を撮影していますが、1999年のコジャエリ地震で、目にはあまり見えないが、多くの被害を受けており、イスタンブールの多くの寺院が補修中です。なお、ハギア・ソフィアでは、つくば大学の日高先生、徳山高専の原先生に偶然お会いしました。ドームの調査に来ているとのことでした。なお、現在のトルコは、中国などと同じく建築活動が盛んで旧市街から新市街へ、また、新市街がどんどん広がっています。地下鉄(多

くは地上)も整備・延長され、10年前に比べると相当に便利になっています。人口も2000万人とのことです。特に、JICAなども関連し、ボスポラス海峡に地下鉄を通す工事が進行中で、建築・土木は極めて盛んで日本とは比べられません。ヨーロッパからも多くの企業が参加しています。中国が世界で大きな位置を占めるようになりましたが、トルコもここ10年でEUでも大きく活躍する国になると思います。中近東に関心のないままの日本では、方向を見失う危険がありそうです。

出張中の余分なことを書きましたが、この3月、32年間勤務した大学を退職しました。退職して6ヶ月、最近やっと「退職した」という感覚が出てきました。この4月に名誉教授、客員教授という肩書きを頂きましたが、建築学会、IASS(国際シェル・空間構造学会)などの仕事もあり、時々、建築学会の委員会や大学にも出ています。IASSでは理事、鋼の空間構造の委員会(WG No.8)の委員長を務めていることもあり、結構忙しい日々を送っています。また、この11月には上海でIASSがあり、学生や中澤先生との共同研究、他大学の先生との共同研究の発表もします。

大学に勤務した加藤の記録は、5月の退職記念会の論文集に、また、ホームページ(<http://www.st.tutrp.tut.ac.jp/>)にありますので、それを見て頂ければと思います。優秀な卒業生を送り出すことが出来、しかも、卒業生との共同研究で空間構造関連の論文が200編にもなり、建築学会賞や国際的な賞も頂き、豊橋技術科学大学の皆さんの優秀さに助けられた思いでいっぱいです。また、開いていただいた5月の退職記念会には、多くの卒業生も含め200人もの方々に来ていただき感謝のきわみです。

まだ、気持ちは現役です。卒業生のみなさんが健康に活躍されるのを期待しています。がんばってください。



## 新任教員より

### 准教授 辻 子 裕 二

2010年4月に、高専・両技科大教員交流制度により福井高専環境都市工学科からこちらに異動になりました。豊橋で過ごした学生時代と変わらぬ風圧を時折感じつつも、アカデミズムに満ちた雰囲気の中に身を置き、以前とは少し違った充実感を味わう日々となっています。

今年度から建設工学系が建築・都市システム学系へと改められました。私は防災・地圏マネジメント領域に所属し、その中で空間情報を利用した土砂災害監視（軽減）策に関する研究を進めています。時間を見つけては被災地に向かい調査も行っています。

この他、ここぞとばかりに提案した「高専・技科大の連続性を考慮した空間情報学のテキストづくり」を始めとして、多くの先生方との繋がりを改めて深めるようなプロジェクトに積極的に関わるようにしています。

本稿が出るころには任期も僅かとなっているでしょうが、悔いの残らないように、また今年の経験が今後の広がりを生むように努めたいと考えております。



### 准教授 増 田 幸 宏

平成22年4月1日付で建築・都市システム学系准教授に着任いたしました。早稲田大学理工学部建築学科、大学院理工学研究科建設工学専攻、同建築学専攻（尾島俊雄研究室）にて学び学位を取得しました。前職は早稲田大学高等研究所に准教授として勤務しておりました。まだ4月より赴任したばかりですが、豊橋は海、山、川といった豊かな自然に恵まれ、農作物もおいしく、温泉地や景勝地にも近いとても住みやすいところであると感じております。また技術科学大学と高専とが連携した教育システムは大変新鮮で大きな可能性を感じております。私の専門である建築・都市環境工学、設備工学は、

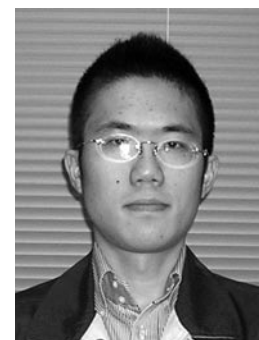
人間を取り巻く環境空間の安全性、快適性、効率性、健康性を総合的に追求する学問です。切迫性が指摘される地震災害等に対する建築・都市の機能維持、地球環境問題としての二酸化炭素排出削減や都市再生上の重要課題であるヒートアイランド現象等に対して、豊橋技術科学大学の学生の皆さんと一緒に社会の要請に応える新たな技術科学分野を力強く切り拓き、展開していきたいと考えております。また研究・教育活動を通じて、実践的な地域貢献活動を積極的に推進していきたいと考えております。同窓会の皆様の御指導・御鞭撻の程どうぞよろしくお願い申し上げます。



### 助教 松 本 幸 大

2009年10月より建設工学系（現、建築・都市システム学系）に助教として着任致しました。米子高専を卒業し、本学建設工学課程に編入学後、修士課程、博士課程の7年間勉強させて頂き（23期生）、3年半の米子高専勤務を経て着任しました。専門分野は、建築・土木の構造工学分野で体育館や橋梁等の大スパン建設構造物の振動・座屈問題、繊維強化樹脂（FRP）を使った構造物の力学特性、構造物のモニタリング・健全性評価に関する研究を行っています。豊橋市内には学

生時代に長期振動モニタリングデバイスを設置した橋梁もあり、学生達と一緒に再び実験・計測を進めていくことに懐かしさと嬉しさを感じながら研究を行っています。住居は二川駅周辺に借りており、学生時代には余り行くことのなかった遊歩道や街並みを楽しんで過ごしております。これからも研究・教育を通じ母校や豊橋に貢献して参りたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。



# 研究室だより

## 建築環境系研究室

修士2年 土井 幸太

卒業生、修了生のみならず、いかにお過ごしでしょうか。それぞれの職場で大いに活躍のことと存じます。建築環境系研究室は現在、松本博教授を中心に増田幸宏准教授、源城かほり助教、修士7名、学部9名の計19名で活動しております。それでは、研究活動の報告をさせていただきます。松本研究室は熱交換式エアフローウィンドウ等の社会的に関心の高まっている建築の省エネルギー技術をはじめとして、観葉植物や香りを用いて知的生産性をいかに高めるかといった研究を行っています。また今年から本学に赴任されました増田先生は都市環境問題に関する研究をされており、室内環境から都市環境までレンジの広い議論が出来る環境となって参りました。また、外部での活動も国内の学会、ワークショップ等への積極的な参加をしており、国際学会でポスターセッションを英語で行うなど、よりモチベーションの高い研究室であることを心がけていま

す。毎年恒例のゼミ合宿については、熱海にて合宿を行いました。その他、研究室行事を通して親睦を深めています。諸先輩方、近くにお越しの際は是非当研究室にお立ち寄りください。研究室一同、お待ちしております。最後になりましたが、先輩方の更なる躍進とご健康を心よりお祈りしております。



## 建設工学同窓会収支報告

建設工学同窓会 役員 谷 武 (13期生)

これまで毎年、全学同窓会から各系同窓会に分配金が分配されていましたが、学科再編に伴い、平成21年度より新規の会費については各系に分配せず、全学同窓会の口座で管理することになりました。そのため、分配金が0円になっております。また、昨年度は同窓会報の発送に大学の封筒を使ったので、例年計上していた封筒印刷費がかかっておりません。これまでは郵送先の優先順位を、自宅、勤務先、帰省先の順にしておりましたが、昨年度は勤務先を優先して発送してみた関係で追加の発送が増え、郵送費が増加しました。

### 平成21年9月1日から平成22年9月1日までの建設工学同窓会の収支決算

名 目	金 額 (円)
<b>■残 金</b>	
平成21年9月1日現在	2,446,716
<b>■収入の部</b>	
全学同窓会からの会計費の分配金	0
預金利息	559
同窓生からの入金	10,000
<b>■支出の部</b>	
全学同窓会報発送作業等費用	69,526
全学同窓会報郵送費用	186,320
<b>■残 金</b>	
平成22年9月1日現在	2,201,429

# 旧第七工学系

## 知識情報工学系より

### 学内近況報告

情報・知能工学系 系長補佐（知識情報工学担当） 石田 好輝

同窓生の皆様におかれましては、それぞれの場でご活躍の事かと存じます。今年度から、知識情報工学課程および専攻の担当をおおせつかっております石田好輝です。知識情報工学系長ではなく、先のような名称となり説明が大変ですが、これは本学の再編とも関わります。再編は本学の大きな変革であり、近況としてこの場をお借りしてやや詳しくご報告したいと存じます。

本学では本年（平成22年）4月より、グローバル化など社会構造の変化に対応した人材育成の要求に応えるため、学部・大学院を再編しました。それにより、これまで知識情報工学課程を含む工学部8課程、知識情報工学専攻を含む工学研究科修士課程8専攻、博士課程4専攻でしたが、本年4月より情報・知能工学課程を含む工学部5課程、情報・知能工学専攻を含む工学研究科博士前期課程5専攻に再編されました。（博士後期課程については、平成24年度開設予定）この再編により知識情報工学系（7系）と情報工学系（4系）のほぼ全員が融合し情報・知能工学系（新3系）となりました。

ただ再編は一気にというわけではなく、学生さんについてみると、本年4月より学部1年生、大学院修士1年生から新課程、新専攻の学生ということになり、この新入の学部1年生が4年生になるまでの間は、新課程と旧課程の学生が混在することとなります。そういうわけで、再編後も旧課程、旧専攻が存在しそれらを担当する者が必要となるわけです。

またこの再編に伴い、学期も皆様おなじみの3学期制から前期、後期の2学期制になりました。厳密には、実務訓練を以前と同様の時期に行っておりますので、運用上クォータ制も取り入れております。さらに授業時間も従来の1限75分から90分と長くなり、午前中の3限を含め6時限までであったものが、午前中の2限を含め5時限までの時間割となっております。これら学期制と授業時間については、新旧ふくめた全ての学生が新しい体制で授業を受けております。

先にグローバル化に言及しましたが、7系では再編以前に英語コースを設け、大学院では英語の授業も行われておりました。再編後の新3系でも英語コースが拡充され、教員や学生は英語での授業にも取り組んで

おります。

さて私事になりますが、再編には2005年より関わってまいり、1998年本学に着任以来のほぼ半分を再編に費やしてまいりました。現在は、7系と4系という、異なった「カルチャー」の融合過程であり、その過程はまさに当方の研究課題であります「複雑系」と言えると思います。組織を運営する異なったルールを融合する場合も、単なる平均というわけにはいかず、まさに非線形の宝庫といえるかも知れません。新3系では「情報と知能で世界を拓く」をモットーに、多くの産業分野を支える情報基盤技術や最先端の情報通信技術で社会に貢献できる人材を育成していこうと教員一同意気込んでおります。同窓の先輩諸氏におかれましても、今後とも知識情報工学課程・専攻および情報・知能工学課程・専攻へのご支援をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

最後になりましたが、同窓生の皆様の日頃の知識情報工学課程・専攻へのご支援に感謝し、皆様の益々のご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

教職員一覧及び学生現員（平成22年10月現在）

#### 【情報科学分野】

教授：磯田定宏、増山 繁、石田好輝  
准教授：河合和久、市川周一、村越一支  
助教：相田 慎、酒井浩之、原田耕治

#### 【機能情報工学分野】

教授：新田恒雄、堀川順生、岡田美智男  
准教授：金澤 靖、北崎充晃  
講師：桂田浩一\*  
助教：杉本俊二、P. Ravindra S. De Silva

#### 【分子情報工学分野】

教授：関野秀男、高橋由雅  
准教授：栗田典之、後藤仁志  
講師：加藤博明  
助教：墨 智成

#### 【事務関係】

事務職員：佐野友子、依田和子  
技術職員：小西和孝

#### 【学生現員】

学部：1年次 16名<sup>+</sup>、2年次 13名、  
3年次 58名、4年次 73名  
修士：1年次 100名<sup>+</sup>、2年次 57名

\* 国際交流センター所属

+ B1, M1 は、新3系（情報・知能工学系）所属

## 新任教員より

### Sri Lanka and University of Colombo

情報・知能工学系（岡田研究室）助教 P. Ravindra S. De Silva



It's my pressure to introduce my miracle country Sri Lanka and beautiful comprehensive and oldest university in Sri Lanka.

The Democratic Socialist Republic of Sri Lanka is an island in the Indian Ocean about 28 kilometers (18 mi.) off the southeastern coast of India with a population of about 21 million. Density is highest in the southwest where Colombo, the country's main port and industrial center, is located. The net population growth is about 0.9%. Sri Lanka is ethnically, linguistically, and religiously diverse.

Sri Lanka is famous for its 1,600 km of unspoilt, golden beaches. It's a paradise Island shaped like a tear drop in the Indian Ocean. Formerly known as Ceylon and famous for its wonderful Tea, Sri Lanka is a vibrant country with an incredible history. The island has an abundance of natural resources, fauna and flora, mountains, rivers and beautiful beaches. It is located at the crossroads where east meets west and is regarded as the gateway to South Asia. The hill country has gorgeous rolling hills and tea plantations. The entire island is teeming with bird life and exotics

like elephants and leopards. A stunning island filled with beaches and wild life sanctuaries like the Elephant Orphanage, ancient cities, hills, beaches — and most of all, its incredible beauty.

In keeping with its motto “Buddhih Sarvatra Bhrajate” which means “Wisdom shines forth everywhere”, the University of Colombo strives to maintain academic excellence in all areas of study. Student life is enhanced by a plethora of extra-curricular activities offered on campus. The location of the University affords the student population all the advantages of a “metropolitan university” in easy access to international information/resource centers, libraries, theaters, sports complexes etc. Today, the University of Colombo with a proud history of over 115 years continues in its endeavor to meet the challenge of maintaining its position as the “metropolitan university, modern and international in outlook and character”.

Inspired by historic links of the first university of college of the country and inherited intellectual traditions, the university of Colombo strives to be a world class institution promoting human development through synergizing knowledge, education, research and creativity, and entrepreneurship whilst upholding democratic values in a plural society.

I have graduated from university of Colombo department of Computer Science & Statistic with honor class and later I have obtained my M.Sc and Ph.D from University of Aizu, Japan. I have worked at Toyota Institute of Technology for 3 years as a research fellow and now I have joined with Interactions and Communication Design (ICD) lab as an assistant professor.

### 旧7系同窓会収支報告（H21年度）

#### ■ 収入の部

項目	平成21年度決算
前年度繰越金	5,295,550
会費(各系分配金)	0
預金利息	1,615
収入合計	5,297,165

#### ■ 支出の部

項目	平成21年度決算
会報経費	
会報発送費	159,390
会報発送作業費	34,930
原稿執筆御礼	10,000
振込手数料	315
小計	204,635
次年度繰越金	5,092,530
支出合計	5,297,165

# 研究室だより

## 金澤研究室の近況

情報・知能工学専攻 博士課程前期1年 脇 元 翔

卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場で大いに活躍されていることと存じます。金澤研究室では現在、金澤靖准教授の指導のもとで12名（修士2年4名、修士1年3名、学部4年5名）で活動しております。

金澤研究室では、人間の視覚機能を計算機で実現する「コンピュータビジョン」を主軸として三次元復元、画像間の対応付け、拡張現実感などの研究に取り組んでいます。具体的なテーマとしては、対応付けが困難とされる繰り返しパターンを含むシーンでの三次元復元や、複数のプロジェクトでスクリーンに1つの絵を投影するマルチプロジェクションシステムの開発があります。画像は計算機で取り扱う上ではサイズの大きいデータですので、先輩達の中には苦勞された方も多いかとは思いますが、最近では計算機やカメラの性能向上によってデータサイズや計算機への取り込みに苦勞することも格段に減り、私たちの研究の一助となっています。

研究室のゼミは週に2回、学部生向けに日本語テキストで行うゼミと院生向けに英語テキストで行うゼミを全員参加で執り行っています。九月からは担当者による発表から一新、みんなでテキストを読んでディスカッションをする形式となりました。初回は慣れない形式でごちないゼミとなりましたが、二回目からはみんなであでもないこうでもない積極的なディス

カッションが出来、これからは発表者だけでなく、参加する全員の知識向上へ大きな手助けとなるゼミになりました。また、研究室では構成員の親睦を目的として機会のあるごとに夕食会などを催してきましたが、最近では夕食会に加え親睦会と称して、自炊をしたり一緒に遊んだり、議論や歓談などしています。

最後になりましたが、皆様は社会人として多忙な日々をお過ごしのことと思います。先輩方の社会人としての生活経験は私たちにはまだまだ足りぬものです。たまにある仕事の都合や長期休暇など、「暇だな」と言える時間がございましたら「そうだ、研究室にでも顔を出してみるか」と気軽に研究室に立ち寄って、お話を聞かせていただければと思います。研究室一同、心よりお待ちしております。



## 高橋研究室の近況

知識情報工学専攻 修士2年 丸 野 裕 史

卒業生・修了生の皆さん、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場で大いに活躍のことと存じます。高橋研究室は現在、高橋由雅教授の指導の下、院生8名、学部生4名で日々研究活動に励んでおります。主な研究内容は、構造活性相関ルールの発見へ向けた薬物構造データマイニング、進化計算による構造設計、分子プロファイリングと類似性評価手法に関する研究、化学情報のポータルサイト構築に関する研究等です。諸先輩方が積み上げてこられた成果を礎とし、新薬の開発支援へ向けた研究に一丸となって取り組んでおります。

それでは近況について報告いたします。

まず高橋先生は変わらずお元気です。先日、先生が9月に参加されたギリシャでの学会の報告を聞かせていただきましたが、発表の件についてはそこそこに、青い海の美しさや、世界遺産に囲まれた町の素晴らしさを熱く語ってありました。12月に参加されるハワイでの学会も楽しみにしてあるようで、世界を股にかけるバイタリティは衰えを知りません。

続いてOBの方についてです。まず本研究室のOBであり、2006年から助手、助教として本学に在籍された藤島悟志先生が、2009年の4月を以って地元の金沢高専に移られました。また今年の春ごろには、1997年

度までポストドクとして在籍されたGary ADMANSさんが、日本への出張の合間を縫って研究室を訪問してください、現在取組んである研究の内容や、家族（特に可愛い子供さん）のことについてお話していただきました。加えて、OBではありませんが、1993年の3月頃から稼働してきた研究室のWeb/メールサーバ(peony)が、今年の夏休みを以ってマザーボードの故障により一線を退くこととなりました。因みに故障発生の際には、先輩が放置…ではなくて途中まで構築してくれていたコンピュータがあったお陰で、データの移行や環境構築を速やかに終わることが出来ました。N先輩ありがとうございました。今年中にはT先輩が構築してくれたゲートウェイサーバの方もリプレイスする予定です。

最後に研究室での活動ですが、今年度は全員参加のBBQやフットサル、有志での富士登山や伊良湖サイクリング等を行いました。掲載写真は、富士山登頂の喜びをかみしめる一同です。平坦な道のりではありま

せんでしたが、皆で登頂し、無事に帰ってくる事が出来ました。また秋頃には、紅葉狩りハイキングや芋煮会のようなイベントも計画中です。

以上、拙い文章で申し訳ありませんが、近況報告とさせていただきます。末筆ながら卒業生・修了生皆様のご活躍とご健康を心よりお祈り申し上げます。



## 市川研究室の近況

電気・電子情報工学系 准教授 市川 周一

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。御存じの通り、豊橋技科大は学内再編にともない大きな変化の中にいます。その中であっては小さい話ですが、私の研究室の近況についてお知らせします。

学内再編では、知識情報工学系(旧7系)の教員はほぼ全員が情報・知能工学系(新3系)の所属になりましたが、唯一の例外として私(市川)は電気・電子情報工学系(新2系)所属となりました。コンセプトとしてハードウェアは新2系、ソフトウェアと応用は新3系に移行したと考えていただければ、理解しやすいかと思えます。

研究室名も、今年度からは内容を表わす名称にするという全学方針に従い、「専用計算システム研究室」としました。これまでもFPGA応用など専用回路技術の研究を進めてきましたが、新2系への所属に合わせて、専用計算システムを研究の中心に据えるという意気込みを表現してみました。もちろん「システム」にはハードウェアとソフトウェアの両方を含みますので、これまでの路線も含めた話になります。

新課程の4年生が卒研配属になるのは2013年度のことですが、既に2010年度から(旧)3系の4年生が卒研配属されています。(旧)7系と(旧)3系の4年生と一緒に卒業研究を進めているわけで、各系の慣習の相

違に面食らったりしながら、学内再編の進行を肌で感じる毎日です。

研究室のWWWページ等も再編に合わせて更新しましたが、近々ドメイン名も新系に合わせて変更になる予定です。長年慣れ親しんだich.tutkieドメインは消滅する予定ですが、新2系ドメインee.tut.ac.jp下で再出発しますので、今後ともよろしく願います(新ドメイン名は現在検討中です)。

この秋にはインドネシアからの留学生もメンバーに加わる予定ですし、高専との共同研究もスタートしております。新しいことの多い1年になりそうです。

皆様のますますのご活躍をお祈り申し上げます。





# 旧第八工学系

## エコロジー工学系より

### 学内近況報告

環境・生命工学系 系長補佐 (旧エコロジー工学系担当) 浴 俊 彦

同窓生の皆様、益々元気でご活躍のこととお慶び申し上げます。あとでご紹介いたしますが、今年4月より学科再編に伴い、旧エコロジー工学系は旧物質工学系とともに、新たに「環境・生命工学系」を形成し、再出発しました。まずは例年どおり、旧エコロジー工学系の近況についてご報告いたします。

教員の異動につきましては、本年3月に生態環境システム分野の金熙濬准教授が新潟大学へ教授として転出され、さらに西和久准教授が任期満了で退職されて、長年、エコロジー工学系の教育研究にご尽力頂いたお二人の先生が本学を去られました。一方、2009年11月からは、岩崎泰永先生が宮城県農業・園芸総合研究所より先端農業・バイオリサーチセンターの専任准教授として着任され、エコロジー工学系(当時)との連携研究室を立ち上げられました(2010年9月末でご退職)。また、本年4月には廿日出好先生が環境・生命工学系の准教授、10月には栗田弘史先生が助教に昇任されました。

旧エコロジー工学系に関連するイベントとして、本年3月には、エコロジー工学系と連携する先端農業・バイオリサーチセンターで2008年から始まった「東三河IT食農先導士の養成事業」で教育を受けた27名の修了生が全国初の「食農先導士」として社会へ巣立ちました。2月には同センターが新城市と協力して製造した本学オリジナル日本酒「天伯之城」・「水源の里」もお披露目され、好評を得ています。3月5日には、県境を跨ぐエコ地域づくり戦略プラン第4回公開シンポジウムが開催され、寺島実郎氏の講演会や後藤尚弘准教授も参加されたパネルディスカッションなど盛況のうちに終了しました。また5月には、再編後も変わることなく恒例の旧エコロジー工学系ソフトボール大会大竹杯が開催されました。

つづいて、再編で新たに発足した環境・生命工学系についてご報告いたします。今年4月から北田敏廣教授を系長として、旧エコロジー工学系と旧物質工学系の教員で発足した「環境・生命工学系」は、「未来環境コース」と「生命・物質コース」の二つのコースから

なります。「未来環境コース」には先端的な環境技術の教育・開発・研究を行う先端環境技術分野と生態循環系の修復・改善・維持を工学的に教育・研究する生態工学分野があり、旧エコロジー工学系では田中三郎・廿日出研、水野・高島研、小口研が先端環境技術分野に、北田研、木曾研、後藤研、大門研が生態工学分野に属しています。「生命・物質コース」は生命工学分野と分子機能化学分野からなり、それぞれ生命科学と分子化学の先端的な教育・研究を行っております。生命工学分野は、菊池研、平石研、田中照通研、浴研を含めた旧エコロジー工学系の研究室を中心に構成され、分子機能化学分野には辻研を加えた旧物質工学系の研究室が所属しています。新系の発足とともに教育面でも新たな動きがあり、今年4月から前期(4月～8月)と後期(10月～3月)からなる2学期制が開始されました。講義時間がこれまでの75分から90分になるなどの変化はありましたが、新カリキュラムへの移行は順調に進んでおります。今年度からのカリキュラムには、環境・生命系教育を重視される榊学長のご指示もあり、新たに「生命科学」と「環境科学」という二つの必須科目が学部3年生向け(修士1年生向けには「生命科学特論」と「環境科学特論」)に新設され、今年度前期に旧エコロジー工学系の先生を中心に分担・開講されました。旧エコロジー工学系の各研究室では、再編後もこれまで同様、活発な研究活動を推進しております。一例として、愛知県が計画した重点研究プロジェクト(10課題)のうちで本年度3課題が選ばれましたが、その一つに田中三郎教授をリーダーとする「食の安心・安全技術開発プロジェクト」が採択されております。

1993年に旧エコロジー工学系が設立されて18年目で「エコロジー工学」から「環境・生命工学」へと新たなスタートを切ったわけですが、旧エコロジー工学系のDNAはスタッフや学生にきちんと受け継がれております。今後とも環境・生命工学系の教育・研究活動に一層のご高配・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。末筆ながら、同窓生の皆様のご活躍をお祈り申し上げます。

## 転出教員より

### 豊橋技術科学大学での思い出と感謝

新潟大学工学部化学システム工学科 教授 金 熙 濬



赴任したとき



離任したとき

平成6年4月から平成21年3月まで16年間、豊橋技術科学大学エコロジー工学系でお世話になりました。この時期はエコロジー工学系という名前の存続期間と重なります。東京大学工学部化学工学科定方研究室助手から新設のエコロジー工学系助教授として赴任した時には、環境に関連する学科であることはボヤッと頭に浮かぶが、エコロジー工学とは何が頭に描けませんでした。いま思えば、若い時だったので、周りの先輩の先生たちから教えてもらいながら、また、見真似しながらエコロジー工学の本質が何かを考えながら手探りで探した時期であり、私自身も成長した時期でした。

初め、慣れなかった豊橋での生活では大竹一友先生に大きなお世話になりました。先生は私の家族も心配して頂き、家内は先生の奥様にお世話になり、今でも続いています。先生は声が大きくて、付き合うのが怖い先生という評でしたが、私にとっては、非難するときは解決方法を持っていること、自分とあわないことを面前で話してくれる（叱る）こと（裏で言わない）、後が残らないこと等が好きでした。大竹先生からは学問以外にも人生に対して多くのことを習いました。ISOの日本代表の関係で海外出張が多かった先生は仕事好きで海外出張から夜遅く戻った日でも大学に来て仕事をしました。今考えれば、エコロジー工学を立ち上げた本人としての責任から、その学問的体系作りには奔走されたと思います。不幸にも大竹先生は平成9年9月26日インドネシアの高等教育の為の国際貢献途中で同国、メダン近郊で飛行機事故により御逝去されました。先生のご冥福をお祈りいたします。

豊橋技術科学大学での16年間は、良い学生と良い研究環境に恵まれ、研究費も潤沢で、大変有用な研究成果も上げました。半講座ではあるが独立して、研究費を稼ぐのは大変でしたが、反面、自分が好きな研究も出来ました。この時期は私の人生の旬の時期で、若くて研究欲も旺盛でした（写真参照）。いま思えば、研究室配属学生には、研究室構成員も多国籍で、夜遅くまで（徹夜で）実験するなどきつい研究室生活を強要（？）させ、大変な経験をさせたと思います。卒業生から、就職したら学生時代より楽になりましたと言われたときには申し訳ない思いと会社で生き残れるという安心感が交差しました。研究室卒業生の更なる発展を祈ります。

本年4月より、新潟大学工学部化学システム工学科の教授として勤務しています。新潟大学化学システム工学科では化学工学の初心に戻り、教員及び学生の方々と今後大きな問題になると考えるエネルギーと環境を両立させる研究の開拓に微力をつくしたいと思います。エネルギーと環境を両立する研究は簡単に行くとは思いません。パズルのように色んな要素技術を組み合わせることで達成可能になると思います。即ち、現在・未来のあるべき現象を究明し、その影響を評価し、対策技術を見出す総合的な研究になると思います。要素技術を組み合わせるのが化学工学の得意分野だと思ひ頑張りますので、どうぞ宜しくご指導、御鞭撻お願いいたします。

最後になりましたが、同窓生の皆様には今後、一層のご活躍を祈念致します。

# 研究室だより

## 反応エネルギー工学研究室

環境・生命工学系 准教授 小口 達夫

旧・エコロジー工学系同窓生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。既にお知らせの通りエコロジー工学系は環境・生命工学系へ再編され、早半年が過ぎました。私が助手として着任した2000年4月の時点では、エコロジー工学系の2期生がようやく修士課程を修了し、また、G1棟は竣工したばかりで総研棟は建設中、という状況でした。それからあっという間に10年の月日が流れ、この間、2005年3月までは松為・鷺田研究室の一員として、以後2009年3月までは木曾研究室の一員としてエコロジー工学系の運営に携わってきましたが、同年4月より改めて、表題のような“看板”を掲げた小さな研究室の運営を担当させて戴くことになりました。このたびこの同窓会報に紙面を頂きましたので、定年退職された松為・鷺田両先生の近況や当研究室の現況についてご報告したいと思います。

まず松為宏幸先生は、2007年3月をもって本学理事・副学長を退任されましたが、2009年3月までは「特別顧問」として本学を取り巻く社会的状況に対応する役を執られました。また引き続き本年度末まで、本学のプロジェクト「県境を跨ぐエコ地域づくり戦略プラン」会長を努めておられます。一方新たな研究の拠点を台湾に得て、衝撃波管を用いた化学反応の研究や、週末の山歩きを楽しまれているご様子です。また鷺田伸明先生は、現在は東京大学大気海洋研究所を拠点とし、環境化学に関する研究や行政のディレクションに携わっておられます。先生方の益々のご活躍に接し、後進として身の引き締まる思いです。

さて当研究室は前述の通り、昨年度より卒研3名の配属でスタートし、本年度は修士1年生2名・卒研4名の学生達とともに、ゆっくりと手探りで、しかし着実に歩みを進めているところです。現在進めている研究テーマは、1) 燃焼排気につきものの“すす”の形成メカニズムの解明とその抑制法の開発、2) 内燃

機関の着火制御や新しい燃焼方式に対応する反応制御技術の開発、3) 燃焼設計・シミュレーションのためのバイオ燃料の燃焼反応モデル構築、4) 化学活性化反応素過程の解明と燃焼現象への影響の検討、といった内容になっており、燃焼反応によるエネルギー・ゲインをより高めるための基礎的研究を推進しております。「地球温暖化」という差し迫る気候変動の危機に対して抜本的な対策の必要性が叫ばれる中、世界全体の1次エネルギー供給量の実に88%（2005年統計値）が地下埋蔵資源の燃焼によって賄われ、当面はその状況が変化しそうもないどころかエネルギー需要は更に増大している、という現実があります。そういった現実を見つめれば、新たな再生可能エネルギー源の開拓は当然としても、“燃焼効率の更なる向上”という喫緊かつ基本的な課題に取り組むことも忘れてはならないと考え、微力ながらも希望を持って取り組んでおります。

「エコロジー」から「環境・生命」へと組織も名前も変わりましたが、「エコロジー」の歴史を知る一人として、これからも同窓生の皆様とのパイプ役を担う所存です。近くにお越しの際はどうぞお気軽にお立ち寄り頂き、ご指導を戴ければと思います。最後になりましたが、皆様の今後のますますのご活躍を祈念しております。



## 旧エコロジエ工学系関連教職員一覧 (平成22年10月現在)

## 環境・生命工学系

## 【先端環境技術分野】

教授：田中三郎, 水野 彰  
 准教授：小口達夫, 高島和則, 廿日出好  
 助教：栗田弘史  
 助手：安田八郎

## 【生態工学分野】

教授：木曾祥秋, 北田敏廣  
 准教授：後藤尚弘, 大門裕之  
 助教：東海林孝幸

## 【生命工学分野】

教授：浴 俊彦, 菊池 洋, 平石 明  
 准教授：田中照通  
 助教：梅影 創, 山田剛史

## 【分子機能化学分野】

教授：辻 秀人

## 先端農業・バイオリサーチセンター (連携研究室)

特任教授：三枝正彦  
 特任助教：李 凱

技術専門職員：坂井悦子

事務室：小林美和子, 坂上千恵子

## 旧8系同窓会収支報告 (H21年度)

(平成21年4月～平成22年3月分)

## ■ 収入の部

項 目	金 額 (円)
前年度繰越金	4,963,080
平成20年度分全学同窓会から8系への分配金	340,000
普通預金利息	1,524
終身会費	10,000
収 入 合 計	5,314,604

## ■ 支出の部

項 目	金 額 (円)
住所調査経費	
往復はがき	41,000
インクジェットカートリッジ	3,150
名簿更新バイト代	66,163
小 計	110,313
8系同窓会から8系への寄付	
投光機および周辺付属品	5,460
発電機および周辺付属品	67,133
記念植樹	262,500
小 計	335,093
会報経費	
会報発送費	94,560
会報発送作業費	10,500
発送用封筒代	8,398
会報発送用ラベルシール代	2,607
小 計	116,065
8系親睦会開催支援金 (2009年5月16日)	89,582
支出小計	651,053
次年度繰越金	4,663,551
支 出 合 計	5,314,604

# 旧 第九学系

## 人文・社会工学系より

### 総合教育院

総合教育院院長補佐 浜島 昭二

「総合教育院」というタイトルを見ても多くの同窓生は、「何じゃ、それは?」と思われるのではないのでしょうか。昨年度までの第9学系(人文・社会工学系)が再編に伴い店舗改修したもので、いわゆる教養教育を担う組織であるという点では変更はありません。具体的には、平松准教授を除く計画・経営の先生方(山口教授、藤原教授、宮田教授、渋澤准教授)が建築・都市システム学系(新V系)所属となり、それとともに自然科学系の一般基礎科目Ⅰの科目を担当するとともにこの科目群の統括責任を担うため機械システム工学系(現:機会工学系)から鈴木新一教授、物質工学系(現:環境・生命工学系)から大串教授が総合教育院に移籍されました。ただし建築・都市システム学系所属の計画・経営の先生方は総合教育院の兼務教員として、社会・経済系の一般基礎科目および大学院博士前期課程の共通科目を引き続き担当されます。同様に鈴木教授、大串教授もそれぞれ機械工学系、環境・生命工学系の兼務教員として研究を継続し、学生指導も担当しています。

複雑化する社会と世界の中で、本学が育てようとしている「指導的技術者」には、科学技術を私たち人間の営み全体の中に位置づけ、今と次の時代との関係において自分の頭で考えられる能力が求められています。それには、自然、社会、人間に関する深い知識と理解が必要です。それを担うのが一般基礎教育で、これを強化することを目的として人文・社会工学系から組織再編されたのが総合教育院とご理解ください。

ただ、本学が目指す工学教育の中でどのような教養教育をおこなうべきなのかについては、時代の変化も念頭に置きながら、さらに検討が必要でしょう。

語学センター、体育・保健センターおよび留学生センターは、これまで9系と一体運営されてきましたが、これらセンターも再編の対象となり、総合教育院の構想と連動する形で進められました。

語学センターと留学生センターが統合されて設置されたのが国際交流センターです。国際戦略の強化という全学的な取組の中で、学生交流を中心的に担う組織として構想されました。留学生センターの役割は外国人留学生および海外留学を希望する学生に対し、必要な教育および指導助言をおこない、日本語・日本文化に対する教育、大学院入学前予備教育、留学生生活のサポート等、留学生交流を通じて国際交流を推進することでした。

語学センターの設置目的は、語学指導をおこなうとともに、教員の外国語研修に寄与すること、国際化時代に対応しうよう、生きた言語を自主的に学習できる環境

づくりに努めるとともに、外国語を集中的・体系的に学ぶことのできる各種事業を主催することでした。

これまでは両センターの従来業務を引き継ぎ、つまりパラレルに実行しながら、同時に、全学的な国際戦略のなかで担うべき役割にも応えるべく努力してきましたが、「キャンパスの国際化」という観点から、一体のセンターとしての自画像を描き上げる作業が必要です。そのためには英語教員1、日本語教員1、専門教育担当教員1、相談担当教員2名という現在の陣容を今後さらに充実していく必要があると考えています。施設面では、同窓生の皆さんにおなじみの語学センターを国際交流センターとし、教室や自習室の改修もしましたので、ずいぶん快適になりました。

体育・保健センターには安田教授と佐久間准教授が所属でしたが、今回の再編で総合教育院が所属先になり、同時に、安田教授は機械工学系の兼務教員、佐久間准教授は体育・保健センターが兼務先となりました。研究室はそのまま、業務に関しても従来どおりですが、後者については今後、さらに検討が必要であると思われます。

## 新任教員より

山本 綾

このたび総合教育院の講師として着任いたしました。専門は言語学です。学生一人ひとりの英語力増強のために力を尽くしていきたいと考えています。OB、OGの皆様、どうぞよろしく願いいたします。

### 教員一覧

#### 〔総合教育院〕

院長 神野清勝(理事、教育担当副学長)  
教授 氏平 明、大串達夫(環境・生命工学系兼務)、  
加藤三保子、鈴木新一(機械工学系兼務)、  
浜島昭二、安田好文(機械工学系兼務)、山本 淳  
准教授 相京邦宏、佐久間邦弘(体育・保健センター兼務)、  
中森康之、平松登志樹、D. M. Levin、吉村弓子  
講師 印南 洋、山本 綾

#### 兼務(建築・都市システム学系)

教授 藤原孝男、宮田 譲、山口 誠  
准教授 渋澤博幸

#### 〔国際交流センター〕

准教授 田村真奈美(総合教育院兼務)、林 孝彦、  
村松由起子(総合教育院兼務)  
特任准教授 Lim Pang Boey(リム パンボイ)  
講師 桂田浩一(情報・知能工学系兼務)  
助手 鈴木聖子

## 第59回東海地区国立大学体育大会成績結果一覧

1 日 時 平成22年5月22日(土)・23日(日), 6月19日(土)・20日(日)・26日(土)・27日(日),  
7月3日(土)・4日(日)・10日(土)・11日(日)・17日(土)・18日(日)

2 場 所 静岡県草薙陸上競技場他19会場

3 幹事大学 浜松医科大学

4 成 績

(男子)

競技種目	大学名	愛教大		三重大		名古屋大		岐阜大		名工大		豊技大		静岡大		浜医大		備 考
		順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	
1	陸上競技	3	6.0	4	5.0	2	8.0	5	4.0	6	3.0	7	2.0	1	10.0	8	1.0	
2	水泳	7	2.0	4	5.0	1	10.0	2	8.0	5	4.0	8	1.0	3	6.0	6	3.0	
3	硬式野球	5	2.0	3	3.5	5	2.0	1	7.0	1	7.0	5	2.0	3	3.5			
4	準硬式野球																	2日目雨天中止
5	硬式テニス	4	5.0	5	2.5	1	10.0	5	2.5	3	6.0	5	2.5	2	8.0	5	2.5	
6	ソフトテニス																	雨天中止
7	バスケットボール	4	4.0	3	5.0			1	8.0	6	2.0	2	6.0	5	3.0	7	1.0	
8	バレーボール	7	2.0	6	3.0	5	4.0	3	6.0	2	8.0	4	5.0	1	10.0	8	1.0	
9	卓球	6	2.0	5	3.0	2	6.0	3	5.0	4	4.0	7	0.0	1	8.0			
10	バドミントン	7	2.0	1	10.0	4	5.0	5	4.0	6	3.0	8	1.0	2	8.0	3	6.0	
11	サッカー	6	3.0	5	4.0	3	6.0	7	2.0	8	1.0	4	5.0	1	10.0	2	8.0	
12	ハンドボール	3	5.0	6	2.0	1	8.0	2	6.0	5	3.0			4	4.0	7		
13	柔道	3	5.0	5	2.0	1	8.0	2	6.0	4	4.0	5	2.0	5	2.0			
14	剣道	2	8.0	8	1.0	6	3.0	1	10.0	4	5.0	7	2.0	3	6.0	5	4.0	
15	空手道	3	6.0	5	4.0	8	1.0	4	5.0	7	2.0	6	3.0	2	8.0	1	10.0	
16	弓道	4	5.0	2	8.0	3	6.0	5	4.0	6	3.0	8	1.0	1	10.0	7	2.0	
17	体操	5	2.0	6	0.0	3	4.0	1	6.0	4	3.0			2	5.0			
18	馬術	5	1.5	5	1.5	1	6.0	3	3.5	2	5.0			3	3.5			
19	アーチェリー	3	3.0	2	4.0	1	5.0	4	2.0					5	1.0			
20	少林寺拳法	2	3.0	4	1.0			3	2.0					1	4.0			
合 計 得 点			66.5		64.5		92.0		91.0		63.0		32.5		110.0		38.5	
男 子 順 位			4		5		2		3		6		8		1		7	

(女子)

競技種目	大学名	愛教大		三重大		名古屋大		岐阜大		名工大		豊技大		静岡大		浜医大		備 考
		順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	
1	陸上競技	1	6.0	5	2.0	2	5.0	3	4.0					4	3.0	6	1.0	
2	水泳	1	8.0	3	5.0	2	6.0	6	2.0	7	1.0			4	4.0	5	3.0	
5	硬式テニス	7		1	8.0	5	2.5	2	6.0	4	4.0			3	5.0	5	2.5	
6	ソフトテニス																	雨天中止
7	バスケットボール	3	3.0	2	4.0			4	2.0					1	5.0	5	1.0	
8	バレーボール	1	6.0	5		3	4.0	2	5.0	5						4	3.0	
9	卓球	4	4.0	3	5.0	1	8.0	2	6.0	6	2.0	7		5	3.0			
10	バドミントン	5	3.0	4	4.0	2	6.0	3	5.0	7	1.0			1	8.0	6	2.0	
12	ハンドボール																	オープン競技
13	柔道																	オープン競技
14	剣道	1	6.0	5	2.0	4	3.0	2	5.0					3	4.0			
15	空手道	6	3.0	5	2.0	6	1.0	3	4.0					2	5.0	1	6.0	
16	弓道	6	3.0	1	10.0	2	8.0	3	6.0	4	5.0	8	1.0	7	2.0	5	4.0	
19	アーチェリー	4	1.0	2	3.0	1	4.0	3	2.0									
合 計 得 点			43.0		45.0		47.5		47.0		13.0		1.0		39.0		22.5	
女 子 順 位			4		3		1		2		7		8		5		6	

# 平成21年度 卒業・修了者の就職先一覧 (50音順)

平成22年3月31日現在

No	就職先	M	B	D
1	(株)ACCESS	1		
2	(株)AIHO	1		
3	ALPS ELETRIC MALAYSIA		1	
4	Andalas University	1		
5	CANON OPTO SDN. BHD MALAYSIA		1	
6	College of Textile Technology			1
7	(株)CSKホールディングス	1		
8	DOWAホールディングス	1		
9	DUTA WACANA CHRISTIAN UNIVERSITY	1		
10	FDK(株)	2		
11	GM Uzbekistan	1		
12	(株)IHI	1		
13	(株)INAX	1		
14	Institute Technology Sepuluh Nopember Surabaya			1
15	Internet Initiative Japan	1		
16	JFEスチール(株)	2		
17	KDDI(株)	1		
18	Kigali Institute of Sc & Technology	1		
19	MANUFACTURING PANASONIC MALAYSIA		1	
20	MARUWA(株)		1	
21	MD建築設計事務所	1		
22	MHIエアロスペースシステムズ(株)	1		
23	National University of Laos			1
24	NGKアドレック(株)	1		
25	(株)NIPPO	1		
26	NSSLCサービス(株)	1		
27	NTT PC Communications, Inc	1		
28	NTTエレクトロニクス(株)	1		
29	(株)NTTデータクック	1		
30	NTTネオメイト		1	
31	PANASONIC ELECTRIC WORKS KENAF MALAYSIA		1	
32	Ransystem Corporation	1		
33	TIS(株)	1		
34	University of the Philippines-Diliman			1
35	VIETNAM LICOGI		1	
36	Vietnam National University	1		
37	(株)アーキヤマデ	1		
38	(株)アーレスティ	2		
39	(株)アイアイジェイテック/ロジエ	1		
40	アイコム(株)	1		
41	アイシン・エイ・ダブリュ(株)	1		
42	アイシン精機(株)	2		
43	愛知みなみ農業協同組合	1		
44	晩合同特許事務所		1	
45	秋田県	1		
46	朝日インテック(株)	1		
47	旭化成エレクトロニクス(株)	1		
48	(有)旭屋硝子	1		
49	アスモ(株)	1		
50	(株)アマダ	1		
51	アンリツ(株)	1		
52	(株)イーシーエス	1		
53	飯田市役所	1		
54	(株)石川県農協電算センター	1		
55	石丸製麺(株)	1		
56	(株)泉創建エンジニアリング	1		
57	伊藤忠テクノソリューションズ(株)	1		
58	茨城大学工学部電気電子工学			1
59	イビデン(株)	1		
60	(株)インターネットイニシアティブ	2		
61	(株)インターネットイニシアティブジャパン	1		
62	インフォサイエンス(株)	1		
63	(株)ヴィッツ	1		
64	(株)ウェアインパクト	2		
65	(株)ウッドフレンズ	1		
66	(株)エイト日本技術開発	1		
67	(株)エー・アンド・デイ	1		
68	(株)エクサ	1		
69	エナジーサポート(株)		1	
70	荏原実業(株)	1		
71	(株)エフ・シー・ジー	1		
72	オーティス(株)		1	
73	(株)大場上下水道設計	1		
74	(株)大本組	1		

No	就職先	M	B	D
75	岡本(株)	2		
76	沖電気工業(株)	1		
77	カグヤ加賀出版		1	
78	化工機プラント環境エンジニア(株)		1	
79	鹿島建設(株)	1		
80	川崎重工(株)	3		
81	カワサキプラントシステムズ(株)	1		
82	(株)カワサキプレジジョンマシナリ	1		
83	川本工業(株)		1	
84	関東自動車工業(株)	2		
85	君津市役所	1		
86	キャノン(株)	1		
87	キャノンファインテック(株)	1		
88	九州電力(株)	1		
89	共立印刷(株)	1		
90	(株)共和電業	1		
91	草竹コンクリート工業(株)	1		
92	経済産業省	1		
93	(株)建設技術研究所	1		
94	厚生労働省広島労働局	1		
95	神戸市役所		1	
96	国土交通省中部地方整備局		1	
97	(株)国立印刷局	1		
98	(株)コナミデジタルエンタテインメント	1		
99	コニカミノルタビジネステクノロジー(株)	1		
100	小西建築構造設計			1
101	コベルコ建機(株)		1	
102	(株)小松製作所	3		
103	(株)コヤマシステム	1		
104	近藤製作所		1	
105	ザインエレクトロニクス(株)	1		
106	(有)三栄電機産業	1		
107	(株)産業技術総合研究所			1
108	ジェイ・パワー・システムズ	2		
109	(株)ジェイアル東日本情報システム	1		
110	自衛隊		1	
111	(株)ジェイテクト	1		
112	(株)志恩		1	
113	敷島製パン(株)		1	
114	四国管区警察局	1		
115	(株)システム総合研究所	1		
116	四電エンジニアリング(株)	1		
117	ジョイバックレジャー(株)	1		
118	(株)神鋼環境ソリューション	2		
119	新光電気工業(株)	1		
120	新光電子(株)	1		
121	新日鐵住金ステンレス(株)	1		
122	新日本製鐵(株)	1		
123	新日本無線(株)	1		
124	神野建設(株)		1	
125	新菱冷熱工業(株)		1	
126	(株)杉浦製作所		1	
127	スズキ(株)	2		
128	スター精密(株)		1	
129	スターツCAM(株)	1		
130	住商情報システム(株)	1		
131	住友金属パイプエンジニア(株)	1		
132	住友重機械工業(株)	1		
133	住友電気工業(株)	1		
134	セイコーエプソン(株)	6		
135	積水工業(株)	1		
136	ソニー(株)	1		
137	ソニー白石セミコンダクタ(株)	1		
138	(株)ソビア	1		
139	(株)ソフトバリー	1		
140	第一精工(株)	1		
141	(株)大気社	1		
142	ダイキン工業(株)	1		
143	大成建設(株)	1		
144	大日本印刷(株)	1		
145	ダイハツ工業(株)	2		
146	(株)ダイフク	1		
147	太平産業(株)	1		
148	太陽日酸エンジニアリング(株)	1		

No	就 職 先	M	B	D
149	太陽誘電(株)	1		
150	大和ハウス工業(株)		1	
151	(株)高木化学研究所	2		
152	(株)竹中工務店	1		
153	(株)ダット		1	
154	田原市役所	1		
155	千葉県庁		1	
156	(株)中電シーティーアイ	1		
157	中部電力(株)		1	
158	千代田化工建設(株)	1		
159	(株)ツジデン	1		
160	(株)ディー・エヌ・エー	1		
161	(株)ティエスフォトン			1
162	(株)ティムス	1		
163	電源開発(株)	2		
164	(株)デンソー	4		
165	(株)デンソーウェーブ	1		
166	天藤製薬(株)		1	
167	(株)東海分析化学研究所	1		
168	東海旅客鉄道(株)	4		
169	東急建設(株)	1		
170	東京製鐵(株)	1		
171	東京電力(株)	1		
172	(株)東芝	2		
173	東芝ITコントロールシステム(株)		1	
174	東芝住電医療情報システムズ(株)	1		
175	(株)東伸		1	
176	東北インフォメーション・システムズ(株)	1		
177	東北電力(株)	1		
178	東洋鋼鈹(株)	1		
179	東洋理工(株)	1		
180	東レエンジニアリング(株)	1		
181	(株)トーマコーポレーション	1		
182	(株)巴コーポレーション	1		
183	豊田合成(株)	1		
184	トヨタ自動車(株)	2		
185	トヨタ自動車北海道(株)		1	
186	(株)豊田自動織機	6		
187	トヨタテクニカルディベロップメント(株)	2		
188	トヨタ紡織(株)	1		
189	トヨタホーム(株)		1	
190	豊橋技術科学大学			1
191	豊橋市役所	1		
192	(株)豊橋造船	1		
193	長田電機工業(株)	1		
194	(株)中林建築設計事務所	1		
195	永森建築事務所	1		
196	国立大学法人名古屋大学			1
197	名古屋臨海高速鉄道(株)		1	
198	(株)ニコシステム	1		
199	西日本旅客鉄道(株)	3	2	
200	日揮ユニバーサル(株)	1		
201	日新製鋼(株)	1		
202	日東電工(株)			1
203	(株)ニデック	1		
204	日本アエロジル(株)	1		
205	日本ガスケット(株)	1		
206	日本軽金属(株)	1		
207	(株)日本原子力研究開発機構	2		
208	日本原子力発電(株)	2		
209	日本サーキット工業(株)	1		
210	日本証券テクノロジー(株)			
211	(株)日本製鋼所		1	
212	日本耐酸窯工業(株)		1	
213	日本中央競馬会	1		
214	日本テクノウェイブ(株)	1		
215	日本電産シンボ(株)	1		
216	日本特殊陶業(株)	1		
217	日本ばちこ部品(株)		1	
218	日本ブレーキ工業(株)	1		
219	任天堂(株)	1		
220	(株)ネクスコ東日本エンジニアリング	1		
221	(株)ネットコム	1		
222	ネットフォース(株)	1		
223	ネットワンシステムズ(株)	1		
224	(株)野田塾	1		
225	バイホロン(株)	1		
226	(株)間組	1		
227	橋本電機工業(株)		1	
228	バダン工科大学	1		

No	就 職 先	M	B	D
229	パナソニック(株)	2		
230	パナソニックエコシステムズ(株)	1		1
231	パナソニック環境エンジニアリング(株)	1		
232	パナソニックシステムネットワークス(株)	1		
233	パナソニックストレージバッテリー(株)	1		
234	パナソニックセミコンダクターシステムテクノ(株)	1		
235	パナソニックマレーシア		1	
236	原田設計		1	
237	東日本旅客鉄道(株)	4		
238	(株)日立アドバンスシステムズ	1		
239	日立アプライアンス(株)	1		
240	(株)日立エンジニアリングアンドサービス	1		
241	日立建機(株)	1		
242	日立工機(株)	1		
243	(株)日立国際電気エンジニアリング	1		
244	(株)日立システムアンドサービス	1		
245	(株)日立情報システムズ	1		
246	(株)日立製作所	1		
247	日立造船(株)	1		
248	日立ソフトウェアエンジニアリング	1		
249	(株)日立ニコトランスミッション	1		
250	日野自動車(株)			1
251	福井市役所		1	
252	富士機械製造(株)	1		
253	富士ゼロックス(株)	1		
254	富士通(株)	2		
255	富士通関西中部ネットテック(株)	1		
256	(株)富士通コンピュータテクノロジーズ	1		
257	富士通テン(株)	1		
258	富士電機ホールディングス	1		
259	(株)富士ファイブ	1		
260	(株)フジヤ	1		
261	フタバ産業(株)	1		
262	ブラザー工業(株)	3		
263	古川電気工業(株)			1
264	(株)フロム・ソフトウェア	1		
265	(株)豊通エレクトロニクス	1		
266	(株)放電精密加工研究所	1		
267	ホーチミン工科大学	1		
268	北陸電力(株)	1		
269	ホシザキ電機(株)	1		
270	北海道電力(株)	1		
271	本田技研工業(株)	4		
272	松定プレジジョン(株)	1		
273	(株)マップクエスト	1		
274	水資源環境局環境部計画協力課			1
275	みずほ情報総研(株)			1
276	(株)ミットヨ		1	
277	三菱自動車工業(株)	1		
278	三菱重工(株)	2		
279	(株)三菱重工 名古屋航空宇宙システム製作所	1		
280	三菱重工プラスチックテクノロジ(株)	1		
281	三菱電機(株)	2		
282	三菱電機エンジニアリング(株)	1		
283	三菱電機プラントエンジニアリング(株)	1		
284	ミネベア(株)	1		
285	武蔵精密工業(株)	1		
286	明治電機工業(株)	1		
287	明治乳業(株)	1		
288	明文産業(株)	1		
289	メタウォーター(株)	2		
290	(株)森精機製作所	1		
291	(株)ヤクルト 本社	1		
292	柳原電気工事店		1	
293	矢作建設工業(株)	1		
294	ヤマハ(株)	2		
295	ヤマハリビングテック(株)	1		
296	ヤンマー(株)	2		
297	(株)リガク	1		
298	(株)リクルートスタッフィングEV職	1		
299	柳伸設計		1	
300	リンナイ(株)	1		
301	(株)麗光	1		
302	ローヤル電機(株)	1		
303	(株)和田建築技術研究所	1		
小 計		300	46	16
合 計		362		



## 同窓会事務局より会員の皆様へ

### ご挨拶

同窓会会長（1系1期） 今 泉 敏 幸

リーマンショックから2年が経過し、日本の経済は持ち直したかと思われましたが、15年振りの円高によって再び不透明な状況に陥りつつあります。急速な円高を背景に、日本国内での工場建設を中止したり、海外に工場を移転しようとする動きが広がってきています。中国で衣料品等を作って日本で売ることは既にお馴染みのことですが、自動車生産をタイや中国に移して、逆輸入し日本で販売しようとする自動車メーカーも現れました。日本経済を支えた製造業の空洞化が急速に進み、日本国内の雇用も失われようとしています。

テレビの報道によれば、技能五輪でも既に日本の優位は崩れており、例えば2009年カルガリー大会でのCNC旋盤の金メダルはタイが獲得する等、これまで日本の発展を支えた技術や技能が急速にキャッチアップされ追い抜かれようとしています。このような困難な状況を克服するには、「技術・技能に磨きをかけた愚直なモノづくり」だけでは無理なように思われます。世界市場における競争力を高める施策、とりわけ新しいコンセプトや発想に基づいた技術・商品を創る力が求められているように思います。

既にご存知と思いますが、今年から豊橋技術科学大学の学部・大学院が8課程/8専攻から5課程/5専攻に再編されました。その狙いは「社会産業構造の変化」や「グローバル時代に対応した人材育成に対する要求」に応えるためとのこと。正しく、これからの日本を支える技術の開発や国際社会で活躍できる人材育成に向けて新たな体制での活動が始まっています。詳細は、豊橋技術科学大学のHPに出ていますので、興味のある方は是非ご覧下さい。

この新たな活動によって、豊橋技術科学大学が益々発展することを心から願っています。大学発展のために同窓会としても援助・協力をしていきたいと考えていますので、会員の皆様には今後とも変わらぬご支援・ご協力をお願いします

最後に、皆様方のご健康とご活躍を祈念しまして、私のご挨拶とさせていただきます。

## ..... 同窓会事業報告および予定（平成21年度～平成22年度） .....

### 1. 会報の発行

同窓会会報第27号を平成21年12月に発行・発送いたしました。印刷部数は10500部、うち9550部を会員に発送し、残りは学内関係者への配布と、会報担当、事務局および各系役員の保管、予備としました。平成22年度は11000部の発行を予定しております。

なお、本年4月に実施された学内再編に伴い、平成24年度以降の会報は全てWeb化し、冊子体による発送を取り止める予定です。詳細は来年度の会報にてお知らせいたします。

### 2. 卒業記念パーティーの開催

平成22年3月23日に、豊橋勤労福祉会館（アイプラザ豊橋）にて行われた大学院修了式・学部卒業式後に、同会館体育館にて学友会と共催で卒業記念パーティーを開催いたしました。平成22年度も例年通り開催する予定です。

### 3. 学生活動への援助

本学学生課と共同で学生活動支援（クラブ活動援助）を行いました。詳細は本文をご参照下さい。

### 4. 役員会の開催

平成22年4月24日に、大学F棟2階会議室において役員会を開催し、昨年度の活動報告ならびに本年度の活動予定等について話し合いました。詳細は議事録(<http://www.tut-ob.org/gijiroku.htm>)をご覧ください。

## 5. 榊学長との懇談会

平成22年5月27日に、ホテルアソシア豊橋において榊学長（本会名誉顧問）、稲垣副学長、神野副学長、辻事務局長、安齋総務課長と、本会の今泉会長、佐藤副会長、感本副会長、関下事務局担当との懇談を行い、大学を取り巻く状況、同窓会活動の活性化などについて意見交換を行いました。

### 平成22年度同窓会役員（平成22年10月現在。所属は旧系で表示）

会 長：今泉 敏幸（中央発條株式会社）  
副 会 長：感本 広文（豊橋技科大機械システム工学系）  
副 会 長：佐藤 裕久（豊橋技科大物質工学系）  
事 務 局：感本 広文（豊橋技科大機械システム工学系）

機械システム工学系（1系：事務局）	感本広文，関下信正
生産システム工学系（2系：会報）	戸高義一，安部洋平，今村 孝，山田基宏，野田善之，前野智美
電気・電子工学系（3系：援助活動）	稲田亮史，村上義信，河野剛士，田上英人
情報工学系（4系：会計）	山本一公
物質工学系（5系：総会・役員会）	大北博宣，佐藤裕久
建設工学系（6系：HP & ML）	谷 武，松本幸大
知識情報工学系（7系：新系対応）	酒井浩之，加藤博明，藤島悟志，山田 実
エコロジー工学系（8系：名簿）	東海林孝幸，栗田弘史

名 誉 顧 問 豊橋技術科学大学学長 榊 佳久

\*各系役員へのメールは、admin\_#@tut-ob.org #に系番号を入れてください。

### 会費納入のお知らせ

本会の会費は、平成4年12月から終身会費制となりました。つきましては、平成5年3月以降の卒業・修了生で入会費（5,000円）または、終身会費（10,000円）が未納の方は、該当する系の振込先へ納入くださいますようお願い申し上げます。

**1系：**三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 791348  
加入者名 豊橋技科大第1工学系同窓会

**2系：**三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 773671  
加入者名 豊友会

**3系：**三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 884432  
加入者名 豊橋技術科学大学3・4系同窓会

**4系：**三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 884432  
加入者名 豊橋技術科学大学3・4系同窓会

**5系：**三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 791362  
加入者名 物質工学系同窓会

**6系：**三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 813330  
加入者名 建設工学同窓会

**7系：**三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 884420  
加入者名 豊橋技術科学大学7系同窓会

**8系：**三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 884418  
加入者名 豊橋技術科学大学8系同窓会

### 住所変更手続きのお願い

同窓会報を発送する際、「宛先不明」となってこちらへ返送される冊数が年々増加傾向にあります。転居の際や自治体合併などの影響で住所が変更された際には、同窓会事務局（TEL：0532-47-0111）へご一報下さるようお願い申し上げます。また、ホームページ上（<http://www.tut-ob.org/address.htm>）でも、住所変更用フォームを利用して、電子メールで手続きができますので、こちらもご利用下さい。

同窓会事務局では、下記の個人情報管理ポリシーに基づき、同窓会員の皆様の個人情報の安全管理に努めております。同窓会名簿のより一層の充実にご協力をお願いいたします。

### 同窓会 個人情報管理ポリシー

- ・同窓会員の個人情報は、担当の同窓会役員が責任を持って管理します。
- ・個人情報の開示依頼があった場合には、依頼者の身元および依頼理由を確認し、必要とする情報のみを開示します。なお、原則として、同窓生および大学関係者以外には開示しません。

※個人情報の非開示や削除をご希望の方は、同窓会事務局または各系役員までご連絡下さい。

### 同窓会報への広告

掲載広告を募集しております。詳しくは同窓会事務局までお問い合わせ下さい。なお、広告によって発生したトラブルなどにつきましては、同窓会では一切の責任を負いません。

## ❖❖❖ 豊橋技術科学大学同窓生への支援事業案内 ❖❖❖

この度、同窓会援助活動の一環として、同窓生の皆様からの懇親会/パーティーの開催を募集し、それに対して下記の通り援助支援事業を開始しました。

申請条件	① 本学出身者であること（申請時に出身学科をお知らせ下さい）。
	② 同窓会報への報告書の提出を条件に援助させていただきます
人数	10人以上に対して援助します
援助金	3万円／10人
募集件数	援助金額の制限に達した場合は打ち切りとさせていただきます
申請方法	書式は同窓会HPからダウンロード可能です。 あるいは同窓会役員にメール連絡して請求可能です。
懇親会/パーティーに関して	趣旨は問いません。 豊橋技術科学大学の輪を学外、卒業生でますます広げていただければ結構です!!

#### (問い合わせ先)

豊橋技術科学大学同窓会事務局  
〒441-8580 愛知県豊橋市天伯町字雲雀ヶ丘1-1  
<http://www.tut-ob.org/>  
[webmaster@tut-ob.org](mailto:webmaster@tut-ob.org)

# ＊豊橋技術科学大学同窓会会則＊

## 第1章 総則

- 第1条 本会は、豊橋技術科学大学同窓会と称する。  
 第2条 本会は、本部を豊橋技術科学大学内に置く。  
 第3条 本会は、会員相互の親睦を図り、豊橋技術科学大学の発展に寄与することを目的とする。

## 第2章 事業

- 第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。  
 (1) 会員名簿の発行  
 (2) 会報の発行  
 (3) 総会の開催  
 (4) その他、本会の目的を達成するために必要とされる事業

## 第3章 会員

- 第5条 本会は、次の会員をもって組織する。  
 (1) 正会員 豊橋技術科学大学にかつて学籍を置いた者  
 (2) 準会員 豊橋技術科学大学に現在学籍を置いている者  
 (3) 特別会員 豊橋技術科学大学の現職及び退職教官  
 (4) 賛助会員 本会の目的を賛助する個人または法人で、理事会において推薦された者  
 2 本会会員は、その所在を変更の都度、本会に通知する義務を負う。

## 第4章 組織

- 第6条 本会に次の役員を置く。  
 (1) 名誉顧問（豊橋技術科学大学学長）  
 (2) 会長 1名  
 (3) 副会長 2名（庶務担当）  
 (4) 理事 原則として各系2名  
 (5) 顧問 若干名  
 第7条 本会の役員の出選は、次の各号に定めるところにより行う。  
 (1) 名誉顧問は、現豊橋技術科学大学学長とする。  
 (2) 会長、副会長は、正会員のうちから理事会の推薦を得て会員の承認を得る。  
 (3) 理事は、正会員のうちから理事会が推薦した者及び会長の委嘱による者とする。  
 (4) 顧問は、役員経験者もしくは特別会員のうち理事会において推薦された者とする。

第8条 本会役員は任期は2年とする。但し留任は妨げないものとする。

第9条 本会の議決機関として理事会及び総会を開催する。

## 第5章 役員

- 第10条 会長は、本会を代表し、会務を総括する。  
 2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。  
 3 理事は、理事会において意見を述べ、事務局及び本会運営の責務を負う。  
 4 名誉顧問および顧問は、本会の運営について助言を与え、会長の要請に応じて本会の会務に出席し意見を述べることができる。

第11条 理事は、本会の次の具体的な業務の実行を担当する。

- (1) 庶務
- (2) 会計
- (3) 会報の編集、発行
- (4) 理事会、総会など重要な会務の開催及び召集
- (5) 会員名簿の管理

(6) 監査

(7) その他、本会の事業全般

2 各業務責任者は理事が担当し、業務遂行する。

## 第6章 理事会

- 第12条 理事会は、第6条に定められた役員により構成される。  
 第13条 理事会は、会長の要請により庶務担当が開催の責務を負う。  
 第14条 理事会は次の事項を審議する。  
 (1) 本会の事業の運営に関する事項  
 (2) 事業報告及び決算報告  
 (3) 事業計画案及び予算案  
 (4) 賛助会員の推薦に関する事項  
 (5) その他、本会の運営に関する議案  
 第15条 理事会の議決は、理事会に出席している役員の過半数の賛成を必要とし、可否が同数のときは、議長が決める。理事会の議長は会長が務める。理事会に欠席した役員の議決は、出席している役員の総意に委ねたものとみなす。

## 第7章 総会

- 第16条 総会は、定期総会と臨時総会とし、会長が召集する。  
 2 定期総会は、4年に1回開催することを原則とする。  
 3 臨時総会は、会長が、その必要を認めた時、開催する。  
 4 会長は、総会を召集するとき、事前に文書で正会員に通知しなければならない。  
 第17条 総会は次の事項を審議し、承認または議決する。  
 (1) 会則の制定・改廃  
 (2) 事業計画及び収支予算案  
 (3) 事業報告及び収支決算案  
 (4) その他、本会の運営に関し重要な事項  
 第18条 総会の議事は、出席正会員の過半数で決め、可否が同数のときは会長が決める。議長は、会長が務める。

## 第8章 会計

- 第19条 本会の運営に必要な経費は、会費、寄付金、その他の収入をもってこれに充てる。但し、必要に応じ、理事会での議決、総会での承認を得て臨時費を徴収することができる。  
 第20条 本会の正会費は、次のとおりとする。  
 (1) 入会金 5,000円  
 (2) 終身会費 10,000円  
 2 会費の納入は入学時に一括して行う。在学中は、準会員としての資格を得る。  
 第21条 既納の会費は原則として返納しない。但し、準会員が、卒業もしくは修了以前に学籍を離れる場合に限り、半年以内に請求があれば、返納する。その場合、会員資格を失う。  
 第22条 本会の会計年度は、4月1日に始まり翌年3月末日に終る。

## 第9章 雑則

- 第23条 本会会則の改訂は、理事会の議決を経て総会の承認を必要とする。  
 第24条 本会会則施行に必要な事項は、理事会の議決を経て会長が定める。

## 付則

- 1 本会則は、平成4年12月19日の総会において会則改訂の承認を得て、平成4年12月20日から施行する。
- 2 平成4年度及び5年度在学生は、第20条における会費の納入を卒業、修了時に一括して納入する。

## 同窓会平成19 および20年度決算報告の訂正について

同窓会報26号および27号にてご報告いたしました各決算報告について、会計手続きの変更にもなう誤りがございました。本報における訂正をもって、会員各位へお詫び申し上げるとともに、下記の通りご報告申し上げます。(太字箇所が訂正箇所となります。)

項 目	平成19年度決算	平成20年度決算
<b>■収入の部</b>		
前年度繰越金	11,040,058	<b>9,538,483</b>
入 会 金	145,000	<b>1,800,000</b>
会 費	290,000	<b>3,600,000</b>
預 金 利 息	<b>18,185</b>	<b>18,790</b>
会 報 広 告 費	80,000	80,000
小 計	<b>533,185</b>	<b>5,498,790</b>
収 入 合 計	<b>11,573,243</b>	<b>15,037,273</b>
<b>■支出の部</b>		
会 報 経 費	855,000	870,000
役 員 会 経 費 (役員手当)	43,000	67,480
庶 務 経 費	28,630	<b>100,135</b>
卒業記念パーティ援助金	250,000	250,000
学 生 活 動 援 助 金	500,000	500,000
Web 関 連 経 費	53,130	53,130
各系への会費配分金	<b>305,000</b>	<b>3,605,000</b>
小 計	<b>2,034,760</b>	<b>5,445,745</b>
次年度繰越金	<b>9,538,483</b>	<b>9,591,528</b>
支 出 合 計	<b>11,573,243</b>	<b>15,037,273</b>

## 同窓会平成21年度収支報告および平成22年度予算案

前掲の平成19－20年度決算報告の訂正に伴い、会報27号掲載の予算案を訂正してご報告いたします。  
(太字箇所が訂正箇所となります。)

項 目	平成21年度予算案	平成21年度決算	平成22年度予算案
<b>■収入の部</b>			
前年度繰越金	<b>9,591,528</b>	9,591,528	13,512,070
入会金	2,000,000	1,935,000	2,000,000
会費	4,000,000	3,870,000	4,000,000
預金利息	<b>10,000</b>	12,302	10,000
会報広告費	80,000	80,000	80,000
小計	<b>6,090,000</b>	5,897,302	6,090,000
収入合計	<b>15,681,528</b>	15,488,830	19,602,070
<b>■支出の部</b>			
会報経費	870,000	976,500	900,000
役員会経費 (役員手当)	65,000	21,700	65,000
庶務経費	50,000	30,430	50,000
卒業記念パーティ援助金	250,000	250,000	250,000
学生活動援助金	500,000	600,000	500,000
Web関連経費	53,130	53,130	53,130
各系への会費配分金	— <sup>※1</sup>	45,000 <sup>※2</sup>	— <sup>※1</sup>
小計	1,788,130	1,976,760	1,818,130
次年度繰越金	<b>13,893,398</b>	13,512,070	17,783,940
支出合計	<b>15,681,528</b>	15,488,830	19,602,070

※1 2009年度総会にて、再編対応事項として、2009年度以降の会費の全体会計での一括管理が、承認されたため。

※2 重複入金等に対する返還分として。

# 学生活動への援助報告

現在同窓会では、同窓会活動の活性化・効率化を目的に大学との連携強化を進めております。その一環として、2006年度より大学運営委員会の一つである学生生活委員会と共同で「課外活動活性化経費援助」を行っています。同窓会では会員の皆様のご理解、ご協力を賜りながら、今後も学生活動に対して積極的な援助を続けたいと考えています。

## おちゃのかい

生産システム工学課程 4年 松井 淳

本年度、私たち茶道部では、例年の活動に加えて様々な活動を行ってきました。その活動の一つとして、国際交流センターが主催した「世界のお茶会」があります。このお茶会は、ミャンマーやタイ、またインドなど「世界各国の文化をお茶を飲みながら知ろう。」と、いうもので、茶道部からも“抹茶”を紹介させていただきました。

「世界のお茶会」というテーマにもあるように、甘いお茶や、少しスパイシーなお茶など、様々なお茶がそこで振舞われており、感想として、「日本のお茶文化は他国と比べて少し異質だな。」と、思いました。

確かに、抹茶を飲むという行為自体が作法になっている茶道は、堅苦しいイメージがありますし、少し“敷居が高い”ような気もします。実際、私も何度か茶道の先生方が開かれるお茶会に、参加する機会があったのですが、とても緊張します。

このように、取っ付きにくいイメージがある茶道ですが、一番に大切なことは『一期一会』の精神をもって、お客様を“おもてなし”することだと思います。

礼儀作法やマナーなどといったことも、確かに大切かもしれませんが、千利休が「これから何度も会うことはあるだろうが、もしかしたら二度と会えないかもしれないという覚悟で人には接しなさい。」と、言うように、いろんな人とお茶を飲みながら話をできることが、茶道をやっていると、一番楽しいことだと私は思います。



## 男子バレーボール部

物質工学課程 4年 赤松 宏紀

この度は、我々バレー部に活動援助をして頂き、誠にありがとうございました。バレー部員一同、心よりお礼申し上げます。現在我々は修士9名、学部17名の計26人で活動しております。活動時間は毎週火、木、土の3日です。時には他大学との練習試合も行い、技術向上に努めております。

現在バレー部は、東海大学リーグの全6部中の5部に所属しております。春季、秋季リーグ戦と東海国立大学体育大会、各地のビーチバレーボール大会など、精力的に大会に参加しております。今回いただいた援助金は、バレーボール、ボールかご、練習内容・試合内容をチェックするためのデジタルカメラ、飲料を持参する際に用いるクーラーボックスに使わせていただきたいと思います。

今回の東海大学春季リーグ戦では7チーム中2位に入り、4部昇格をかけて入れ替え戦に望みましたが、惜しくも破れてしまいました。東海国立大学体育大会では8チーム中4位に食い込みました。

個人もチームとしても充実してきているので、9月末から始まる東海大学秋季リーグ戦では、優勝・4部昇格を狙えると自負しております。大会に向けて部員一丸となって練習に励んでいきたいと思っております。今後のバレー部の活躍にご期待ください。

## ボランティア部

エコロジー工学課程 4年 出口 史明

この度は課外活動活性化経費によりボランティア部を支援していただき、ありがとうございました。今回いただいた助成金は、表浜 BLUE WALK 2010の備品購入費用の一部として使用させていただきました。



表浜 BLUE WALK は、静岡県と愛知県の県境から伊良湖岬までの表浜海岸 50km を清掃する活動です。この活動に技科大ボランティア部もスタッフや参加者として積

極的に参加しています。今年は8月13日から21日までの9日間実施されました。総勢650名の人々が参加して約5.3tのゴミを拾い、大成功のもと終わることができました。これも支援いただいたおかげであると思います。

また、私たちボランティア部は月1回の清掃活動やツリーハウス作り、資源回収などの活動を行っており、少しずつ活動内容を増やしています。他大学との交流等も考えています。今後も、今まで以上に積極的に活動を行っていききたいと思いますので、よろしくお願ひ致します。

最後になりましたが、この度はボランティア部を支援していただき、本当にありがとうございました。



## JAZZ研究会

情報工学課程 3年 小坂 龍一

この度はJAZZ研究会を援助していただき、誠にありがとうございます。私たちJAZZ研究会は、JAZZを中心とした音楽の演奏活動を行っています。学内での演奏活動はもちろんのこと、学外などにセッションという形で出かけて演奏することもあります。今年度は、例年よりもたくさんの新入生が入部しました。たくさんのバンドを作り、学内・学外を問わず、活動の機会を増やしていきたいと考えています。

JAZZ研の演奏活動で、最大の特徴といえるのが、セッションです。セッションではバンド単位での活動を崩し、いろいろな人と、その場その場で演奏直前に楽曲を決めて、自分の感性に任せて演奏します。学外の演奏では、社会人の方とセッションをする機会もあります。いろいろな方の演奏を聴くことができ、演奏面でも、精神面でも成長につながっています。



また、技科大祭での模擬店として、JAZZの演奏とともに、珈琲や軽食を提供するJAZZ喫茶を毎年開催しており、来場されるお客様に好評をいただいております。今年は昨年よりもたくさんのお客様に足を運んでいただくことができ、部員一同大変よろこんでおります。

ライブやJAZZ喫茶の営業などで、部員はたくさんの方の演奏の機会に恵まれております。これは部員の努力はもちろんのこと、皆様からのご支援によるものであります。

今後も、ライブや、JAZZ喫茶の営業など、JAZZを通じての交流を深めようと思っております。今後のJAZZ研究会にご期待ください。

## 国際交流クラブ

知識情報工学課程 4年 袴田 幸枝

この度は、私ども国際交流クラブに資金援助をしていただき、誠にありがとうございます。援助金は、企業見学旅行の費用として使わせていただきます。企業見学旅行は、留学生を対象としており、日本の企業について理解を深めてもらうために行っているものです。今年度の企業見学旅行は、3月に行う予定です。訪問先は未定ですが、昨年はトヨタ自動車とメグミルクを見学しました。

国際交流クラブでは、企業見学旅行の他にも、様々な活動を行っています。毎月行っている交流会では、留学生と日本人学生が楽しく交流し、コミュニケーションをとれる有意義な場となっています。また、留学生をサポートするために、日本語教室という、楽しく日本語に親しんでもらう教室を行っています。毎週、自分たちで資料を作成し、行っています。さらに、季節ごとの日本の行事も行っています。これは、留学生に日本の文化を体験してもらうために行っているものです。夏には流しそうめん、冬には餅つきを行っています。毎年、留学生に好評で、多くの人たちに楽しんでもらっています。

私どもは、部員数が60名を超える大きな団体です。ひとりひとり個性があり、それぞれの考え方を持っています。これからも、アイデアを出し合い、より楽しい行事を行ってゆきたいと考えています。そして、留学生との絆を深め、お互いを理解し合い助け合っていくよう、活動を続けてゆきたいと思っております。





## アカペラサークル J.U.S.T.

### エコロジー工学課程 4年 鮫島 直斗

この度は、アカペラサークル J.U.S.T. を援助していただき、誠にありがとうございます。部員一同心よりお礼申し上げます。今回の支援金はスピーカーとパワーアンプの購入費用として使わせていただきました。

アカペラサークル J.U.S.T. では技科大祭を始め、豊橋駅前やショッピングセンターなどでライブ活動を行っております。今回はライブで使用するスピーカーとパワーアンプを新調させていただきました。購入させていただく以前は創部当時から所持しているスピーカーを使用していましたが劣化が激しく、いつ音が出なくなってもおかしくない状態でした。そのため、購入させていただき非常に感謝しております。もし、まちなかでアカペラライブをしているところを見かけましたら、立ち止まって聴いていただけると幸いです。さらにレベルの高いアカペラを目指し、精進して参りますので今後の活躍にご期待ください。



## TUT ソイルタワーチーム

### 建設工学課程 3年 村林 雄太

2010年8月18日から20日まで愛媛大学において「第45回地盤工学研究発表会」が開催されました。学会中には今年で5回目の開催となる「ソイルタワーコンテスト」が行われ、本学からは学部3年生のみ（建設工学課程：村林雄太、新田浩史、土屋貴之、谷口正樹）でチームを結成し参加をしました。

ソイルタワーコンテストとは最大5人1組のチーム戦で、与えられた7種類の試料を自由に配合し、その混ぜ



合わせた土を締め固めて円柱状のタワーを作り、ソイルタワー値（耐荷重をタワーの重さで除したもの）、プレゼンテーション（配合の理由やタワーのコンセプト）を競うコンテストです。また、作製にあたっては高さに一定の基準や、全種類の試料を使用しなければならないなど規定があり、その中でより軽量で強いタワーを作ることを目指します。

コンテストには大学の研究室のみならず、高専の研究室や企業など12チームが参加し、それぞれが様々なアイデアを用いてタワーを作製し優勝を目指していました。

私たち豊橋技科大チームは初参加でしたが、メンバーが互いに意見を出し合い、重ねてきた練習の中で得た知識や経験を元にタワーを作製しました。結果は、初参加にして準優勝と言う大満足の結果を残す事ができました。

コンテストへの参加は、土木・地盤工学への知識をより深めることができ、様々な人との交流を通し、自分自身の知見を広げられ、経験したすべてが自身の様々な面のレベルアップに繋がったと思います。

最後になりましたが、ご支援をいただいた同窓会、練習場所を提供して下さった研究室の先生及び先輩方には、ここに感謝の意を表したいと思います。ありがとう



## 硬式野球部

### 生産システム工学課程 4年 齋藤 尊正

この度は、硬式野球部に御援助いただきありがとうございます。

現在、硬式野球部は学部4年生14名、3年生7名、2年生1名、1年生5名の全部員27名で活動しています。毎週火、木、金曜日の放課後、土曜日の13時から練習しており、日曜日には積極的に練習試合を行っています。練習内容としては、基本的な打撃・守備・走塁練習から実践練習まで、試合を想定した練習を取り入れるよう心掛けています。

主な活動内容は、7月に行われる東海国立大学体育大会に出場することでしたが、今年度より愛知大学野球連盟に再加盟し、秋季リーグより出場しています。愛知大学野球リーグは毎年度春季、秋季リーグがあります。試合が増えることで部員全体の意識の向上を図り、実力の向上に繋がっていきたいと考えています。そして、チームが一丸となり、

全員野球で勝利を掴むことを目指しています。

私達の今後の目標としては、東国体ではまず1勝し、優勝を目指します。また、愛知大学リーグでは加盟時の5部から4部に昇格することを第一の目標として取り組んでいきます。

今回の援助金は、再加盟後最初の秋季リーグでの連盟金や選手登録料などに充てさせていただきました。私達のリーグ戦での活躍で応えたいと思います。

これからも目標の達成に向けて日々努力していきますので、今後とも応援のほどよろしく願いいたします。

## 模型部 (TuT)

### 情報工学課程 4年 荻野 雅泰

この度は模型部 (TuT) に援助して頂き、誠にありがとうございます。私たち模型部 (TuT) は「模型を楽しむ」をモットーに、今年度から新設させていただいたサークルです。部員は13名と、まだサークル規模は小さいですが、模型コンテストに応募したり、技科大祭で作品展示を行ったり、精力的に活動しています。

今回援助して頂いた物品は、技科大祭での子供を対象としたプラモデルの制作体験会を開催するために使用させていただきました。この体験会は、プラモデルの制作を通して子供たちに「モノづくり」の楽しさを知ってもらいたいと思い開催しました。

サークルとして初めての試みだったので、どれくらいプラモデルが必要なのかも検討がつかず、全てが手探りでしたが、技科大祭2日分として用意していた40人分のプラモデルがわずか1日で全て無くなるという予想以上の盛況ぶりでした。参加してもらった子供たちからは「楽しかった」や「また来たいです」など様々な感想を貰った他、親御さん達からも「子供がとても楽しく作ることができました」と感想を頂けたので、初めてにしては上手くできたのではないかと考えています。

ただ、少なからず問題点もあったので、これから先イベントを開催する機会があった時に、経験として生かしていきたいと思っておりますので、このようなイベントが開けるよう、今後ともご支援のほどよろしく願いいたします。



## ロボコン同好会

### エコロジー工学課程 3年 磯部 夏美

この度は、我々ロボコン同好会に課外活動活性化経費援助を頂き、誠にありがとうございます。ロボコン同好会部員一同、心よりお礼申し上げます。

我々ロボコン同好会は毎年、主に「NHK 大学ロボットコンテスト」、「ABU アジア・太平洋ロボットコンテスト」に参加し、優勝することを目標とした活動を行っています。

2010年、我々はNHK 大学ロボコンに参加し、惜しくも決勝戦では敗れましたが、準優勝という成績を取ることができました。

援助経費は、ロボットのバッテリーや、練習に用いるビデオカメラ、ノートパソコンに充てさせていただきました。ロボット制作において、私たちが最も力を入れている改良・調整の時間を例年以上に意義のあるものになると考えております。

現在は、2011年6月に開催される「NHK 大学ロボットコンテスト 2011」への出場資格を得るため、12月上旬にある一次選考へむけて、学部生17人、修士16人の計33人で活動しています。

昨年度優勝することのできなかった悔しさをばねに、例年以上の良い結果を報告できるよう、ロボコン同好会部員一同、精一杯尽力して行きます。今後とも応援のほど、宜しく願い致します。ロボコン同好会の活躍にご期待下さい。



## 水泳部

### エコロジー工学課程 3年 渡邊 知也

豊橋技術科学大学水泳部部长、エコロジー工学課程所属B3の渡邊知也です。この度は課外活動活性化経費援助という形で私たち水泳部に活動援助をして頂きありがとうございました。水泳部の活動といたしましては、夏季に行われる東海地区大学による中部インカレ、東海地区の国公立大学にて開催される東国体に向けて週2回学校プールで泳ぎ泳力向上に努めています。冬季は本校で行われる駅伝大会に向けて陸上トレーニング、他には水泳

以外のスポーツの方に取り組み身体作りを行っています。

昨今技科大の水泳部は部員が少なく、練習、大会出場において参加人数が足りず少人数での活動を余儀なくされてきました。しかし、今年は自分を含め11人の部員が入部をしました。これだけ多くの部員が一度に入部するのは水泳部始まって以来だと思えます。これにより、少人数での練習は無くなり、大人数で活動を行えるようになりました。

大人数になったことで活動の幅が広がったことにより、今年の水泳部は今まで以上に活気に満ち溢れていると思えます。そんな中、今回このような活動援助を頂きとても嬉しく思いました。頂いた活性化経費の方は水泳部の備品の方に使わせてもらいました。これを機に、今年度残りの活動、そして来年度も充実した活動が行えるよう頑張ります。



## 硬式テニス部

### 生産システム工学課程 3年 加藤 啓太

この度は、課外活動活性化経費の申請を受理していただきありがとうございます。硬式テニス部では現在、総部員数37名で活動しています。本部活動では、大きな目標として、春から夏にかけての東海学生テニス連盟リーグ戦や、毎年7月初旬に開催される東海地区国立大学体育大会の主に2つの団体戦での活躍を掲げて、部員が一団となって日々の練習に励んでいます。また、個人でも東海学生テニス連盟主催のテニス大会や地域の一般大会などにも出場し、技術の向上を図っています。

しかしながら、テニスの練習には大量のテニスボールが必要であり、また、消耗品であるためにコストの高さが問題となっていました。今年は特に昨年に比べて部員数が10人以上減少したことで、部費がかなり少なくなり恒例行事の中止やボール購入数を抑えることを検討していました。そんな中、この申請を受理していただき、今夏には毎年の恒例行事である合宿を無事に行うことができました。普段の練習にも、新球を使って練習することは試合に近い感覚でのテニスができるため、非常に良い効率での練習ができると期待しています。

私たちは運動部ですので、これからも練習に励み、そして大会に出場して結果を残していくことで、今回援助していただいた成果を見せることができると良いと考えています。



## 弓道部

### 生産システム工学課程 4年 新井 智晃

豊橋技科大に弓道部が発足して、3年が経ちました。今では部員数64人の大所帯となり、日々修練に励んでおります。このたび課外活動活性化経費により、弓と矢立てを購入していただき、部員の練習の質も高まりました。部員一同、大変感謝しております。同窓会からのご後援に感謝いたします。

さて、儀礼を以ての辞に続き恐縮ではございますが、当部は来年度、東海地区国立大学体育大会の担当校となりました。すでに、来年度の弓道部を運営する学部3年生たちは、大会への闘志みなぎり、弓は軋み、一刹那の弦音はあたかも勇壮な弓士を彷彿とさせます。部員たちの射的的は、戦国合戦の戦場を連想させるほどの矢溜まりと化しております。これほどの力量と闘志をもつ部員たちに恵まれ、弓道部は今まさに絶頂の極みにあるといえるでしょう。

しかし、惜しむらくは部員たちのやる気に応えられる設備に恵まれていないことです。大学内に弓道場のない



私たちは、日々の稽古は専ら学外の道場をお借りしています。それでも不足する練習量を補うために、トレーニングに励むものもいれば、精神鍛錬のために茶道に通じ、武の心を磨くべく柔術に打ち込む者もいます。これほど質の高い部員たちの努力が実るべく、いつの日か豊橋技科大内に弓道場ができることを切に願っております。名実ともに豊橋技科大弓道部の名が、世に轟くことを期待し結びの句と致します。

## 武 道 部

### 情報工学課程 3年 グントーング ヌッチャガン

この度は武道部に援助して頂き、誠にありがとうございました。武道部員一同、心よりお礼申し上げます。援助金は試割用板及び保冷剤の購入に使わせて頂きました。試割用板は試割の稽古に、保冷剤は応急手当てに使用させて頂いております。ご援助により、潤滑な活動が出来るしております。

武道部は現在24名で活動しており、毎週水曜と土曜に剛柔流空手やサイ、トンファー、ヌンチャク、杖といった武器を使った古武術の稽古に励んでおります。毎回の稽古で先生方が指導して下さい、更に土曜日には卒業生も稽古に参加し、部員は多くの指導者に丁寧に武道を習うことが出来ます。普段の活動に加えて、地域の方に武道の楽しさと魅力を感じて頂こうと毎年7月に豊橋文化会館にて演武会を開催し、空手と古武術の基本、形、約束組手、試割、護身術などの演武を行っております。今年は「一心」をテーマに7月18日(日)に第6回演武会を開催し、ご来場の皆様楽しんで頂きました。武道の稽古と演武会などの仕事を通して諦めない心や人を思いやる心を持ち、人に信頼され、部員一人ひとりが人間的に成長していくことが武道部の目標です。

ご支援を頂いたことを忘れず、今後も活動の目標を達成させると同時に大学及び地域に貢献できるよう、一層稽古に励んでいきたいと思っております。



## 自動車研究部

### 情報工学課程 3年 谷地中 宏基

この度は、自動車研究部に支援して頂き、誠にありがとうございます。部員一同、心よりお礼申し上げます。

援助金は工具等車両製作に必要な物品の購入に充てさせて頂きました。

私たち自動車研究部は、全日本学生フォーミュラ大会に参戦する車両を製作するため、日夜活動しております。全日本学生フォーミュラ大会とは、学生だけで企画・設計・製作したフォーミュラスタイルの小型レーシングカーで競技を行う大会です。この大会では、車両の走行性能だけでなく、車両のマーケティング、企画・設計・製作、コスト等のものづくりにおける総合力を競います。

今年開催された第8回大会では、車両のデザインや設計を競技するデザイン審査において、3年連続デザインファイナルへ出場することができました。しかし、マシントラブル等により総合成績は44位という不本意な結果に終わってしまい、悔いの残る大会となりました。

来シーズンは、今回の大会の結果を真摯に受け止め、更なる技術力の向上を目指し、チームメンバー一丸となり精進して参ります。今後ともご支援のほど宜しくお願い致します。



## アニメーション&コミック研究会

### エコロジー工学課程 4年 下 剛 明

この度は、課外活動団体に対しまして課外活動活性化経費という支援をいただき、御礼を申し上げます。

私達、アニメーション&コミック研究会は、男女合わせ30人以上のメンバーで活動しています。日頃の活動としましては、アニメ・漫画の鑑賞、イラスト・漫画の作成などを談笑を交えて行っております。部の発行物として、サークルメンバー向けのスクールカレンダーや、新入生向けの活動紹介誌、技科大祭に来ていただいたお客さん向けの小冊子など製作しており、今年度は技科大祭において漫画冊子を製作・配布いたしました。また、例年技科大祭において、セル画教室という塗り絵教室を開かせていただいたり、部員の描いたセル画の展示を行い、多くのお客様にお越しいただいております。

さて、今回申請させていただいた援助物品により、活動環境の改善が図れるものと考えており、これを期に、ますます活動に力を注いで行く所存であります。この度

のご支援、重ねて御礼を申し上げます。拙い文章ではありますが、これもちまして、私どものサークルの援助活動報告とさせていただきます。



## 豊橋日曜学校

### 機械システム工学課程 4年 小牧 拓也

この度は、私たち豊橋日曜学校に援助していただき、誠にありがとうございます。部員一同心からお礼申し上げます。

私たち豊橋日曜学校は月に一度、日曜日に豊橋市内に在住の知的障害を持つ子供たちとふれあうことを目的としたボランティア団体です。活動内容は、7月はプール、8月はキャンプ、10月は運動会、12月はクリスマス会、1月は餅つきなどなど、その月ごとにさまざまなレクリエーションを企画して子供たちとふれあっています。例えば8月のキャンプでは、伊良湖の休暇村で子供たちに実際にテント張りを体験してもらいました。子供たちに普段の生活ではできないようなことを体験してもらうこと・子供たちにいつも笑顔でいてもらうことを目標に活動しています。援助金は、このようなレクリエーションを企画するための備品・消耗品購入に使わせていただきました。

活動は他大学（愛知大学・岡崎短期大学）と合同で行っています。卒業された先輩方の支えもあり、「日曜学校」という団体は今年で設立37周年を迎えることができました。この歴史を絶やすことの無いよう、子らからも精一杯活動していきたいと思えます。



## バスケットボール部

### エコロジー工学課程 4年 長内 麻記

私たちバスケットボール部は、前年度と今年度、2年連続で東国体にて準優勝を果たしました。前年度、延長戦の末決勝で敗れ、悔しい思いをしましたが、それを糧に1年間練習に励んできました。焦ることなく、秋から冬は基礎を固め、粘り強く努力してきました。今年度も順調に決勝戦へと駒を進め、万全の態勢で試合に臨みましたが、残念ながら勝つことはできませんでした。しかし、来年度こそはとチームが一丸となり、練習に励んでおります。先輩たちのご支援があってこそ、何不自由なく練習を行うことができています。先輩達への感謝を胸に、全身全霊で勝ちをつかみに行きたいと思っております。これからもご支援とご声援のほど、よろしくお願いいたします。



## 自然部

### エコロジー工学課程 4年 高梨 藍生

この度は私たち自然部に援助を頂きまして、誠にありがとうございます。頂いた援助金はノートパソコンの購入に充てさせて頂きました。部員一同深くお礼を申し上げます。購入したノートパソコンは記録と報告を兼ねて部のホームページの更新や、各種データの記録・保存に使用させて頂きます。

私たち自然部は現在58名で活動しており、月2回の活動を行っております。表浜の清掃活動などのボランティア活動、愛知近隣で行われる自然環境に関する各シンポジウムの参加等、また四季折々の自然と触れ合うことを目的とした滝巡りや紅葉狩り、登山など幅広い活動を行っております。

毎年の恒例行事である富士登山清掃合宿は、今年度は8月10日から11日にかけて実施致しました。軽い高山病が1名出たものの、大きなトラブルや怪我人もなく、無事に敢行することができました。昨年度は天候の関係で見られなかった御来光を拝むこともでき、達成感に満ちた2日間でありました。

今後もボランティア活動や部のホームページの積極的な更新を行い、また大学内だけに留まらず、他の環境保護団体様との交流・提携を行っていききたいと考えております。今後ともご支援のほどよろしくお願い致します。



## 卓球部

### B4 本間 浩章

この度は、卓球部に援助していただき、誠にありがとうございます。卓球部員一同、心よりお礼を申し上げます。この援助は卓球マシンの購入に使わせてもらい、練習にさらに力を入れることができます。

現在、卓球部は部員約30名で活動しており、毎週火曜日、木曜日を練習日としております。練習では部長を中心に楽しく、真剣に練習に取り組んでおり、日々自身のスキル向上に努めております。また、他校との練習試合も積極的に組み、スポーツを通じた交流を深めております。

大会にも積極的に参加しており、団体戦と個人戦の両



方に出場しております。ここ最近の大会としては全国国公立大学卓球大会に出場しました。結果としては、団体戦では1勝2敗によりもう一步のところで決勝トーナメント進出を逃してしまいました。個人戦でも個人的に日々の練習の成果を発揮できたのではないかと思います。

皆様よりいただいた援助により多くの大会に出場することができました。これからはより一層の努力を重ね、大会で良い成績を収めることで感謝を伝えていきたいと思っております。今後の卓球部の活躍にご期待ください。

## 総合文化部

### 知識情報工学課程 4年 粥川 陽介

この度は課外活動を支援して頂き、ありがとうございます。私たち総合文化部では、課外活動活性化経費よりビデオカメラやICレコーダー、コピックの援助を受けさせて頂きました。これらは演劇での映像作品作成といった新しい事へチャレンジすることが出来ましたし、本番・練習の舞台撮影による練習の活性化にもつながっています。また今年度は、他の部門とのコラボした演劇を持って小学校へ訪問したり、東国祭へ初めて参加したりといった事を行うなど、色々な事へ挑戦してみようという意欲が高まっています。合唱でもICレコーダーを使って、自分たちの欠点を指摘しあい、さらなる向上のため、日々の練習にも力が入っています。

総合文化部は本学の中でも出来て日が浅いサークルですが、最も多くの人数を抱えるサークルでもあります。そんな大所帯で活動していくことで様々な問題にぶち当たる事がありますが、演劇・写真・合唱・奇術・美術技術・文芸・手芸という今ある部門で協力しつつ、日々の活動



に励んでいます。今後もより一層活動に励み充実したサークルにしていこうと思っております。最後になりますが、この度は誠にありがとうございました。





キャンパス



人間・ロボット共生リサーチセンター 全方向移動車椅子 (右端)